

令和 5 年度  
交通ボランティア等ブロック講習会運営支援業務  
事業報告書

令和 6 年 2 月

内閣府政策統括官(政策調整担当)

## 目次

### 1. 交通ボランティア等ブロック講習会実施概要

事業の目的	1
事業の内容	1
実施の概要	1
参加者アンケート集計結果(全体)	4

### 2. 実施ブロックの報告

北海道ブロック	8
東北ブロック	34
関東・甲信越ブロック	64
東海・北陸ブロック	86
近畿ブロック	114
中国・四国ブロック	136
九州ブロック	160

## 1. 交通ボランティア等ブロック講習会実施概要

### 【事業の目的】

本事業は、家庭及び地域社会における交通安全活動の推進に重要な役割を果たす交通ボランティア、交通指導員及び地域交通安全活動推進委員等（交通ボランティア等）の交通安全に対する意識の高揚及び資質の向上を図り、地域社会全体の交通安全の確保を図ることを目的とする。

### 【事業の内容】

地域の交通情勢や特性を認識させるとともに、こどもや高齢者等の年齢層に応じた指導方法、実践的手法等を受講者に習得させることを目的とした講習会を実施する。

講習会のプログラムは、各ブロックのテーマに沿った内容を効果的に実施できる知見を持った講師による講演のほか、各地域における最新かつ有益な活動事例の発表とコーディネーターの進行による意見交換会より構成する。

### 【実施の概要】

《開催地・開催日・会場・参加者数》

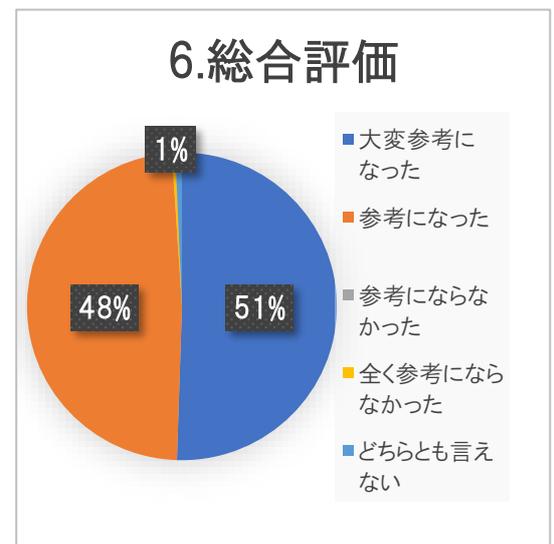
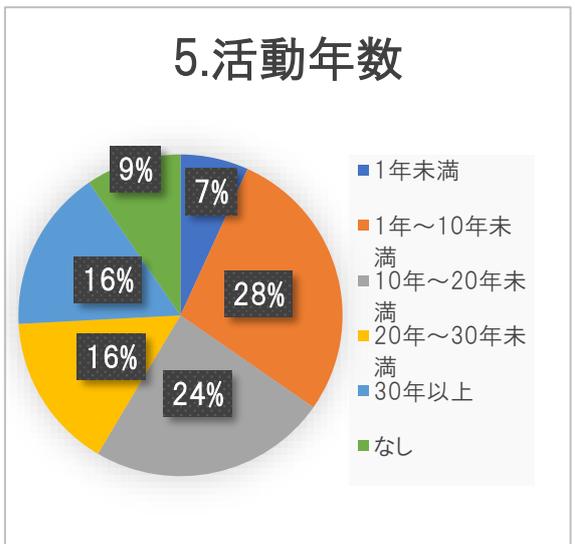
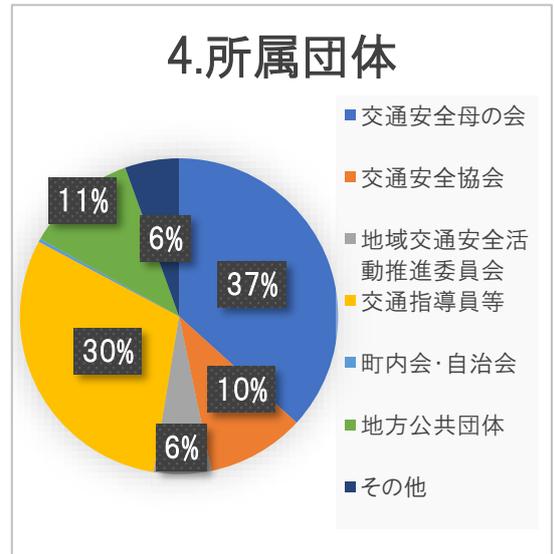
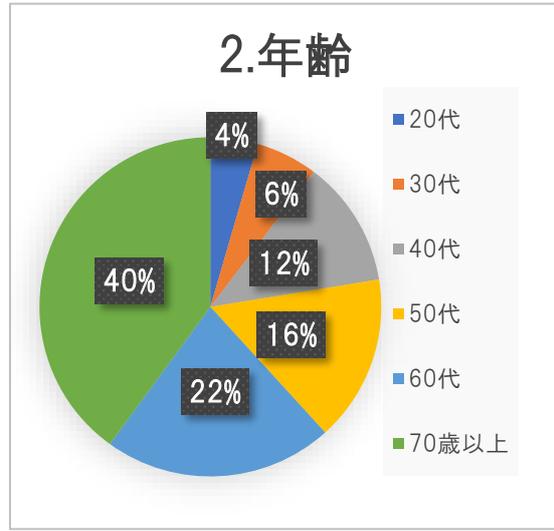
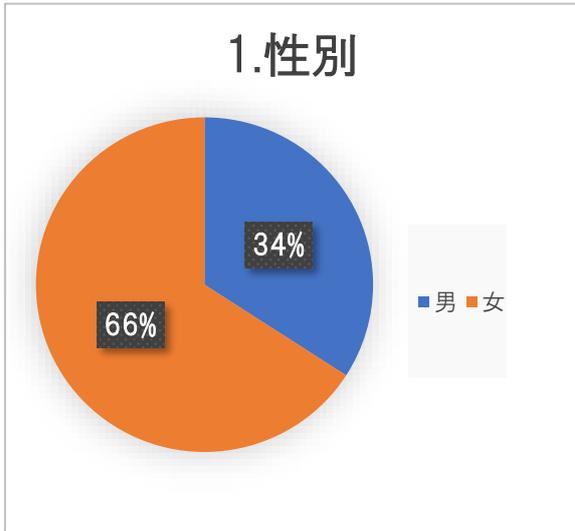
ブロック	開催地	開催日	会場	参加者数
北海道	北海道 札幌市	11月8日(水)	ホテルポールスター札幌 セレナード	現地 58名
				オンライン 52名
東北	秋田県 秋田市	11月1日(水)	ホテルメトロポリタン秋田 ジュエルB	現地 16名
				オンライン 0名
関東・ 甲信越	新潟県 新潟市	11月22日(水)	ホテルグローバルビュー新潟 春日	現地 32名
				オンライン 26名
東海・ 北陸	三重県 津市	9月15日(金)	三重県教育文化会館 第5会議室	現地 24名
				オンライン 11名
近畿	奈良県 奈良市	11月15日(水)	奈良県コンベンションセンター 会議室202	現地 35名
				オンライン 9名
中国・ 四国	香川県 高松市	10月20日(金)	リーガホテルゼスト高松 エメラルド	現地 20名
				オンライン 16名
九州	宮崎県 宮崎市	10月24日(火)	ニューウェルシティ宮崎 アンジェラス	現地 34名
				オンライン 13名

《講師・コーディネーター》

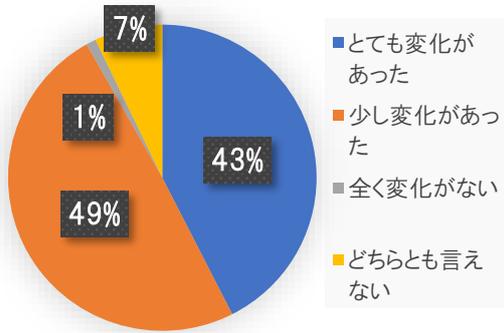
ブロック	演題・講師	コーディネーター
北海道	①「自転車の交通安全について」 彦坂 誠（一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長） ②「安全なまちの歩き方～子どもと高齢者を交通事故から守るために～」 宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）	宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）
東北	①「高齢者に対する交通安全の動機づけ」 鈴木 春男（千葉大学 名誉教授） ②「子供の交通安全・雪道の安全運転～効果的な学習方法を考える～」 奥山 祐輔（黒井産業㈱黒井交通教育センター本部／東北公益文科大学 サステナブル・モビリティ研究所）	奥山 祐輔（黒井産業㈱黒井交通教育センター本部／東北公益文科大学 サステナブル・モビリティ研究所）
関東・甲信越	①「自転車の交通安全について」 彦坂 誠（一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長） ②「高齢者の交通事故防止について」 村山 敏夫（新潟大学 准教授）	鈴木 春男（千葉大学 名誉教授）
東海・北陸	①「子供の交通安全教育について」 山口 直範（大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 教授） ②「高齢者に対する交通安全の動機づけ」 鈴木 春男（千葉大学 名誉教授）	鈴木 春男（千葉大学 名誉教授）

ブロック	演題・講師	コーディネーター
近畿	①「子どもの交通安全について」 蓮花 一己(帝塚山大学 客員教授) ②「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」 稲垣 具志(東京都市大学 准教授)	稲垣 具志(東京都市大学 准教授)
中国・四国	①「自転車の交通安全について」 彦坂 誠(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長) ②「子どもを交通事故から守るために」 宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)	宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)
九州	①「高齢ドライバーの事故原因と防止策について」 山口 直範(大阪国際大学 人間科学部 人間健康科学科 教授) ②「交通ボランティアの育成について」 宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)	宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)

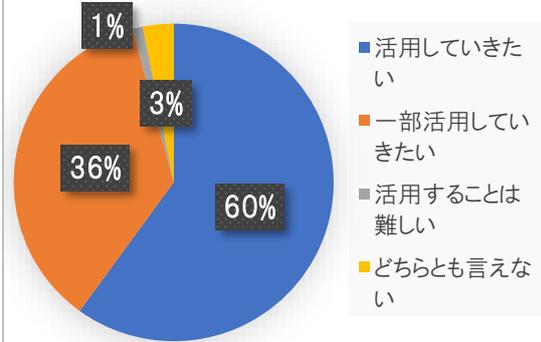
【参加者アンケート集計結果(全体)】



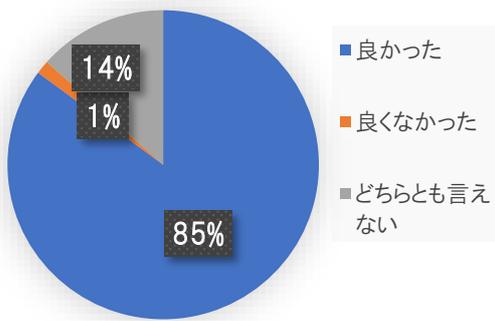
### 7.意識の変化



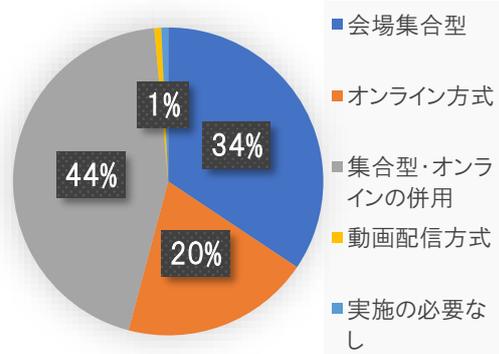
### 8.講義内容の活用



### 9.実施方法



### 10.来年度の実施方法





本講習以外で、交通ボランティア活動に必要な知識・技術を得るための機会や方法等についてご意見があれば、お聞かせください。

本講習会の運営、スタッフの対応等についてご意見があれば、お聞かせください。

その他、ご意見ご要望ご感想などお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

## 2. 実施ブロックの報告

北海道ブロック

## 1.プログラム詳細

11月8日(水)

時間	分	内容
09:30～10:00	30	受付
10:00～10:10	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 北海道挨拶(北海道)
10:10～11:10	60	講演① 彦坂 誠(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長) 「自転車の交通安全について」
11:10～11:20	10	休憩
11:20～12:20	60	講演② 宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長) 「安全なまちの歩き方～子どもと高齢者を交通事故から守るために～」
12:20～13:20	60	昼休憩
13:20～14:10	50	活動事例発表
14:10～14:40	30	活動事例発表に関する意見交換会
14:40～14:50	10	講評(コーディネーター) 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子
14:50～15:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
15:00		終了

## 2.講義等の記録

### ■講演①

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長

彦坂 誠

#### 「自転車の交通安全について」

#### 交通事故件数と自転車関連事故件数（構成率）の推移

- ・ 10年間の推移を見ると交通事故は下がっている
- ・ しかし、自転車が占める割合は年々上昇傾向にある
- ・ 対歩行者との自転車の事故が増えているが、現在顕著なのは自転車単独事故
- ・ 単独事故の理由で多いのは若い方はスマホを見ながら運転し前方不注意、高齢者は出会い頭での転倒など

#### 年齢層別自転車関連死亡重傷事故：65歳以上、19歳以下の若者の割合が高い

⇒自転車における交通安全教育のターゲット

#### 交通安全教育の手法

交通事故は、なぜ起こるのか？

⇒他人まかせの交通安全になっている、自分事として「意識」をしていない

⇒自分事として意識するためには、学んだことを他者に伝えることで身につく

#### 交通教育としてのグループディスカッション

##### ① 交通場面観察

【全体】映像の中の交通ルール違反をあげる

【個人学習】どのような危険が予測されるか？

普段どのようなことに気を付けているか？を考える

【グループ討議】なぜ、危険な行動をする人がいるのか？

どうすれば安全に行動できるか？を話し合う

【行動目標】交通事故に遭わない、起こさないための『私の行動目標』を決める

##### ② 交通事故ストーリー作成

背景がないイラストを用いて発生日時や時間を考え、（本人・家族・職場や学校など）事故のよる影響を考えてもらう

⇒交通事故を身近に感じて、具体的な防止策を話し合う

## 自転車の交通ルール改正の流れ

昭和 40 年代：モータリゼーション進展と自動車事故増加

- ・自転車と自動車の分離がなされる
- ・自転車利用者の「車両意識」の希薄化

2007 年：「自転車安全利用五則」

- ・その後、普通自転車専用通行帯の設置、路側帯の通行方法の変更

2022 年：「自転車安全利用五則」改定

- ・自転車のヘルメット着用の努力義務化

### 【五則の 1】

車道が原則、左側を通行。歩道は例外、歩行者を優先

- ・車道通行が原則で、左側通行しなければならない。逆走しないようにする
- ・自転車は標識に従い、歩道では歩行者を優先し、車道寄りを徐行する

### 【五則の 2】 交差点で信号と一時停止を守って、安全確認

- ・信号遵守や一時停止の必要性和アイコンタクトの重要性

### 【五則の 3】 夜間はライトで点灯

- ・ライトは前方の安全確認、自分の存在を相手に知らせる役割

### 【五則の 4】 飲酒運転は禁止

### 【五則の 5】 ヘルメットを着用

## 自転車ヘルメットの選び方

ヘルメットの種類はソフトシェルタイプ、ハードシェルタイプがある

- ・安全認証マークがついているか

—SG マーク、JCF マーク、JIS マーク、CE マーク、CPSC マークなどがメジャー

- ・頭にフィットするか確認（お店で試着する）

—正しい着用として、水平に被ること、耳横アジャスターは耳下に来るなどがポイント

- ・似合っているか、気に入っているか

・「自転車用ヘルメット」として販売されているものの中に、自転車用として認められていないものも販売されているので、注意が必要

## その他の注意点

- ・傘さし・携帯電話・イヤホン等使用運転の禁止

・親子乗り自転車（幼児 2 人同乗用自転車）の注意点：子どもを乗せたままで自転車から離れない

- ・電動アシスト自転車の暴走に注意：加速が良いため、急発進に注意する。また、歩道では

暴走しないように注意する

### **自転車事故を起こした時の義務**

一救済措置、危険防止措置義務

- ・ 負傷者を助け、保護する（119番通報）
- ・ 負傷者の危険防止措置をする

一報告義務

- ・ 警察官へ報告義務（119番通報）
- ・ 事故現場から立ち去ってはいけない⇒義務を怠ると、ひき逃げ事件となる

## ■講演②

日本こどもの安全教育総合研究所 理事長

宮田 美恵子

「安全なまちの歩き方～子どもと高齢者を交通事故から守るために～」

### 1. 子どもの交通事故被害状況

#### 世界の中の日本—交通事故死者数推移—

- ・わが国の交通事故死者数は減少している
- ・諸外国の中で日本の交通事故の死者数は少ない。最も多いアメリカに比べると3分の1程度である

#### 子どもの交通事故死 ゼロ！

2019年 ノルウェーの子ども（16歳未満）の交通事故死 0人

日本の交通事故死者数

	2016年	2017年	2022年	国・県名	人口
0歳	3人	9人		ノルウェー	530万人
1～4	28	21		兵庫県	546万人
5～9	34	31		福岡県	511万人
10～14	26	15			
合計	91	76			

※平均3.7人（年）2009～2018年

- ・2019年ノルウェーが子供の交通事故死でゼロを実現した
- ・日本においては2016年には14歳以下が91人、翌年は76人であった
- ・ノルウェーの人口は兵庫県、福岡県と同じぐらいの人口規模。1件でも減らして、子どもの交通事故ゼロを目指していきたい

### 2. 子どもの交通安全教育

#### 【幼児期の安全教育 諸外国の例】

- ・イギリス「とまる、みる、きく」という音も五感の一つとして大事にしている
- ・ドイツ「ゆっくり歩く訓練」として、どのように安全に歩くかについて注目している
- ・日本「とまる、まつ、みる」ということを念頭に置いて教えている

## 【歩行中の死傷者数（年齢別）】



警察庁統計

⇒歩行中の死亡者数・死傷者数は、全年齢の中で7歳が突出している

## 【幼児の行動特性に対する安全管理と教育】

- ・ 1つのもの、ことに注目する
- ・ 応用できない
- ・ 気分によって行動が変化
- ・ 抽象的な言葉は伝わらない
- ・ 大人に依存する・真似をする
- ・ 物陰で遊ぶのが好き

⇒危険を回避するため大人が先回りをして安全を確保するとともに子どもとの約束や、発達に沿った教育が必要になる

## 【7歳の事故 課題と対応】

- ・ 就学前の家庭等における学習不足
- ・ 環境適用のための経験不足
- ・ 緊張感と慣れ
- ・ 形骸化した学習による応用力の問題
- ・ 教育と環境の不一致
- ・ 各家庭、商店などの交通空間への配慮不足
- ・ 障害のある子に対する合理的配慮の不足

## 【連続性のある交通安全教育】

**家庭**：しつけとして親子で→**園や地域**：地域の人、先生や友達とのトレーニング

→**学校**：安全教育・安全指導

⇒親子のしつけにはじまり、連続性を持って、先生や地域の人たちと一緒に繰り返しトレーニングしてることが重要。それが学校の安全教育につながっていく

### 【家庭で行う安全教育 7 か条】

1. 交通事故などについて話題にし、命を守るわが家の約束を一緒に決める
2. 命の大切さを伝える
3. 信頼関係を深め、愛情の絆を結ぶ
4. 大切な子どもであることを伝える
5. 約束や決まりを守る習慣をつける
6. 身の回りの物を大切に作る習慣をつける
7. 家族や地域の人などにあいさつをする

⇒我が子が大事な命をもっている大切な存在であることを伝える。その上でルールを守る大切さを理解させていく

### 地域の安全教育

実地で教えることが出来る貴重な場面である

幼児期：イメージさせる

小学校：具体的に教える

安全教育の目標：意思決定や行動選択ができる、危険を予測する、回避行動ができる  
地域社会の安全活動に進んで参加し、貢献できるように

### 2. 交通安全体験学習の進め方

#### 【交通 3 原則 + 1 の具体化】

とまる：曲がり角の度に止まる習慣

まつ：1～2 歩下がって待つ 歩道では歩道奥で待つなど

みる：「見る」でなく「視る」

わたる：青信号は赤信号のつもりで再確認、ドライバーとのアイコンタクト

⇒交通ボランティアさんの活動の中でも「とまる・まつ・みる・わたる」ができていますか指導してほしい。

その際には、子どもたちに伝わりやすい、「やさしい日本語」を用いるとよい。

⇒専門用語や難しい表現を用いず、平易で短い言葉で伝えると、障害のある子や幼い子でも理解しやすい

#### 【安全なまちの歩き方：7 ポイント】

- ・歩道の歩き方
- ・住宅地の歩き方、横断の仕方
- ・歩行者信号機のある道路での横断
- ・信号機のない横断歩道の渡り方
- ・駐車している車の間からの横断の仕方
- ・降りたバスの後方からの横断の仕方
- ・駐車場の歩き方

⇒交通安全学習として、実際に子どもと一緒に道を歩きながら、覚えさせたいことはその場で教えるのが効果的

### 【安全なまちの歩き方：教え方】

1. 保護者が子どもに、これからやってみることや目的を話して聞かせる
2. 子どもの安全を確保した状況で、保護者が歩いて見せる
3. 周囲の安全に配慮して、親子で歩いてみる
4. 保護者が近くで見守りながら、子どもが一人で歩いてみる
5. 「とまる・まつ・みる・わたる」の応用が必要な場所を歩いてみる

⇒保護者は子どもの歩き方の良い点、直すべき点を教え、反復トレーニングしながら行動の理由を子どもに聞くことも効果的

## 3. 高齢者の歩行中の事故状況と対策

### 【北海道における高齢者の交通事故】

- ・交通事故による年間死者は減少傾向だが、年間死者に占める歩行者構成率は横ばい

⇒とりわけ歩行者の交通安全について考えていく必要がある

- ・死者は高齢者が突出して多く、高齢者のうち75歳以上の後期高齢者の死者が特に多い
- ・発生月別で見ると、高齢歩行者の負傷者及び死傷者は9月以降増加し、11月がピークとなる

⇒夕暮れが早いこと、気象的な問題も関連してくる

- ・曜日別で見ると、歩行者負傷者、歩行中死者ともに水曜日が最も多い
- ・時間別で見ると、高齢歩行中の死者は17時台が最も多く、次いで19時台が多い
- ・高齢歩行中の負傷者を見ると、9時台から11時台にかけて増加し、その後一旦減少するが、16時台から18時台にかけて再び増加し、その後減少していく
- ・歩行中の死者では「横断歩道以外横断中」が最も多い

⇒歩幅、歩く速度、認知能力などが変わっていることを自覚することが重要

### 【高齢者の死亡事故はなぜ多い？】

加齢により身体機能や認知機能などの低下

- ・身体機能の低下により歩行速度が低下
- ・周囲の状況に対する認識、判断力の低下

危険を察知し瞬時に行動しにくくなる

- ・交通事故の危険を認識しても、とっさに退避行動できない
- ・治癒能力の低下により死亡リスク高まる

⇒加齢による身体機能・認知能力・治癒能力の低下などは、データなどエビデンスを示し、自らの現状を理解してもらうことが非常に重要である

### 【高齢の歩行者が事故に遭わないためには？】

買い物の際に事故に遭うことが多い

⇒行動パターンを書き出してみる。上記データの特徴に照らし、事故に遭いやすい行動パターンになっていないか確認の上、対応を講じる。

- ・時間をずらす
- ・白色の服、反射材を着用
- ・マイルールにならない
- ・車のハイビームに気づくようにしたい（ドライバーはスピードを落とし、ハイビームを活用）

⇒買い物の際には事故件数が多い傾向があるので、その時間をずらす、白い服を着てみる、反射材を持つなどは効果的である。また、自分の行動がマイルールとっていないか見直すことも必要である

### 健康管理

- ・運動、コミュニケーションを心がける
- ・現在の身体能力を知る

⇒人と人とのコミュニケーションを心がけ積極的に人と関わっていき、また、自分の現在の身体機能を知り、維持もしくは向上するための運動することも非常に大事である

参考資料：北海道警察本部交通企画課

「高齢歩行者の交通事故実態～高齢歩行者の交通死亡事故を防止するために～」

(令和5年8月22日)

## ■活動事例発表

### 札幌市交通安全運動推進委員会／西区交通安全運動推進委員会交通教育指導員

白土 睦

札幌市西区交通安全運動推進委員会の白土と申します。本日は当推進委員会の活動状況について発表させていただきます。札幌市には10区に交通安全運動推進委員会があり、それぞれの区において、その地域に密着した交通安全活動を推進しています。札幌市の本年度の交通安全運動は高齢者の交通事故防止、自転車の安全利用の促進を運動の重点とした方針で西区でもこの方針に従い各種交通安全運動を展開しています。西区交通安全運動推進委員会では、町内会の皆さんや関係団体の皆さんと一緒に交通安全運動を進めているほか、交通安全教室を開催して交通事故のない、明るく住みやすい社会を作るために活動しています。

私たち交通教育指導員は小学校や幼稚園・保育園さらに高齢者クラブなどを訪問して交通安全教室を行っています。交通事故に遭わないように、そして自分の命を守るために、守ってもらいたい交通ルールについて説明しています。令和4年度は札幌市西区で延べ180回開催し、約1万5千人の方を対象に交通安全教室を実施しました。これは小学生や保育園・幼稚園での交通安全教室です。子供たちに対する交通安全教室では重点的に教えていることとして、道路を渡るときの4つの約束があります。子供達に道路を渡る時に大事な事を質問すると、まず手をあげるということが上げられてきます。それが浸透しているのですけれども、札幌市では道路横断する前に危険がないか充分に確認することの重要性から「とまる・みる・きく・まつ」という4つの約束を教えています。具体的には、道路を渡る時には飛び出しをしないためにも必ず止まること。そして、右・左・右をよく見ること。見えないところから車が来てないか音をよく聞くこと。そして、車が来ていたら通り過ぎるまで待つことということです。これからの冬の期間は降雪や雪山によって交差点の見通しが悪かったり、冬の帽子着用により音が聞こえにくくなったりすることもあるので、特に注意して確認するようにするように伝えていきます。子供たちの交通事故で圧倒的に多い飛び出し事故を防ぐためにも、この4つの約束は幼児から小学生まで繰り返し教えています。信号機が青であっても必ず車が止まってくれるわけではない。大切な自分の命を自分で守るという意識づけになればと思っています。小学生の交通安全教室では、学年に応じて具体的な事例や映像を使って、自らの命を守ることの大切さを教えています。自転車乗車中のヘルメット着用や自転車利用のマナー法令順守など、交通安全のルールを理解し事故に遭わない行動を取れるよう効果的な教室を目指しています。さらに小学校の高学年になると理解度も高まってくるので、事故にあった場合ではなくて、自分がもし事故を起こしてしまったときどのような責任を取らなければいけないのかなど、責任と賠償についての話もしています。

次に高齢者に対する交通安全教室です。交通事故死者数の半数以上が65歳以上の高齢者という現状を理解してもらい、ひとりひとりに交通安全に対する危機意識を持ってもらえ

るような教室を行っています。これが高齢者に対する交通安全教室の様子です。高齢者の交通事故では、信号無視や斜め横断など歩行者側に交通ルール違反がある場合もあります。実際のドライブレコーダー映像を見てもらい、危機意識を持ってもらえるように心がけています。また、年齢からくる衰え・判断力・身体能力の低下を認識してもらい、無理のない行動をお願いしています。高齢歩行者の事故は夜間・薄暮時也多発していることの現状を踏まえ、明るい服装と夜光反射材の着用を呼び掛けています。高齢者に対しては、反射リストバンドやキーホルダータイプのリフレクター、反射シールなどを渡して身につけてもらえるように指導しています。

高齢ドライバーの交通事故では、アクセルやブレーキの踏み間違いやハンドル操作ミスが目立ちます。統計上でも操作ミスが原因の交通事故が 64 歳以下の 2 倍となっています。そのことから免許返納についても検討を促すべく、返納者支援制度に関する積極的な情報提供に努めています。次に自転車の安全利用の推進ですが、各交通安全教室や街頭啓発で自転車安全利用五則を中心に安全ルールの遵守・マナーの向上・ヘルメット着用について呼びかけています。その他の交通安全活動として、オートバイ運転者に対する交通事故防止を目的とした啓発活動、交通安全母の会や交通指導委員会スクールゾーン実行委員会など各交通安全推進団体との連携した交通安全活動を推進しています。これは運動時の街頭啓発の様子です。交通事故多発警報が出た際の庁舎前街頭啓発と候補者広報の様子です。詳しい活動は西区セーフティという広報チラシを作成・配布し札幌市西区のホームページでも公開しておりますのでご覧いただければ幸いです。以上、当推進委員会の活動に状況について発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

## 静内地域交通安全活動推進委員協議会 会長

### 石垣 勝英

静内地域交通安全活動推進委員協議会の石垣でございます。22 枚の写真を月別に掲載してございますので、よろしく申し上げます。中身については他の推進委員会の方々の行事と同じようなことを皆さんやっているなという感じで、皆さんも恐らくそのように感じているのではと思いますが、よろしく願いいたします。私ごとになりますけども、昨日でやっと 89 歳になりました。説明にあたっては彦坂先生、それから宮田先生の饒舌な説明に、すっかり聞きほれているような状況で、ああいう風になりたいなという感じでおりますので、精一杯やりますので、年寄りに免じて間違ったときにはよろしく願いいたします。

それでは始めたいと思います。1 月から 3 月までの行事になります。これは新ひだか町というのは 10 何年になりますか、三石町と静内町が合併してできた町です。ということで、これは新冠町の幼稚園に行った時の交通安全教室です。ここでグッズを皆さんに差し上げているのですが、町から活動資金として補助金をいただいて活動しております。そのお金でこういうグッズを買うことができしております。

次、これは年金支給日に 8 時 45 分ぐらいから高齢者が殆どなのですけども、年金を受け

取りに行きます。その時の活動内容でございます。これは今年の警察音楽隊の取材に来たということでこの時にも入口で活動をしました。これは隣町の新冠町のふるさと祭りでの一コマです。これは新ひだか町に合併した三石町なのですが、蓬莱山まつりの会場で啓発のグッズを配布して交通安全をお願いしているところでございます。これは国道 235 号線静内警察庁前での一コマなのですが、全道一斉旗の波運動写真でございます。これは住民の集いを毎年やっています。旧三石と静内、交互に会場を分けていてやっております。これは馬を使った街頭パレードということなのですが、新ひだか町の静内の乗馬クラブ町営でやっております。その馬を借りてきて、この上に乗っているのは高校生なのですが、全国大会に行ったような腕自慢の人です。馬を使うというのは大変苦勞が要ります。人手も要ります。なぜかという、会場まで大型トラックに幌付きの車に乗せて馬を連れてきて、そして馬ですから糞をします。その後始末をするために人、手綱を抑える人、こういう人が数名いなければ実施できません。金銭的にはなかなか厳しいものがあるかと思っておりますので、お金のことを心配しないでできるようにしていただきたいと思っております。これは昨年、今までずっとビアガーデンで飲酒運転の啓発をお願いしております。それからこれは三石キャンプ場でのオートバイの乗り入れについての交通安全をしております。それからこの歳末パトロールですね。これも去年までやっていたのですが、今年も一応やる予定ですので、ここに掲載しております。ご清聴ありがとうございました。

## 釧路地域交通安全活動推進委員協議会 委員

### 上出 浩

はじめまして、交通安全活動推進をしております上出と申します。よろしく願いいたします。はじめに自己紹介をさせていただきます。私は 61 歳、仕事は自営業をしております。生まれも育ちも釧路で、皆様もご存知かもしれませんが、夏でも寒い時があり、冬は非常に雪が少なく住みやすい所です。私は釧路地域交通安全活動推進になる前から毎朝、小学生の登校時間見守りをしているため、朝 5 時には起床し通学路で 30 分程度見守りをしています。それでは釧路地域交通安全活動推進員の活動についてお話しします。

釧路地域交通安全活動推進員とは、釧路圏警察署管内において啓発活動や交通安全教育活動を行ない、地域における道路交通のモラルを向上させる活動をしています。私は 2 年前の令和 3 年 7 月 1 日から委員となっており、これまで釧路警察署と行動で様々な活動を行ってきました。任期は 2 年であり 2 年ごとに更新されるため現在は 2 期目となります。少しばかりですが、活動内容をご紹介します。まずは春夏秋冬の各期に実施される交通安全出動式です。この写真は今年の 7 月 13 日に釧路市内の駐車場で行われた夏の交通安全運動の様子を写した写真です。釧路総合振興局・釧路市・関係機関・団体と合同で実施しています。出動式の後は参加した全員で旗の波を作り、交通安全を呼びかけております。次は飲酒運転防止啓発の写真です。これは今年の 7 月 15 日に釧路市の野球場で行いました。北海道日本ハムファイターズ 2 軍戦前に日本のファイターズのご協力により、試合

前に飲酒運転根絶の看板を掲げ、町内アナウンスにより飲酒運転根絶を訴えました。残念ながら天候が雨だったこともあり、観客は少なかったものの大声援をいただきました。これは小学生に対する交通安全教育の写真です。こちらも毎年実施しております。警察や道路管理者と協力して小学校に除雪の重機を持ち込み、重機の死角について学んでもらい、交通事故の被害に遭わないようにするために実施しております。この写真は二輪車の交通事故防止啓発の様式です。昨年の6月26日に釧路市内の駐車場で出動式を行ったのちに、白バイの先導で合同パトロールに出発しました。私は地域交通安全活動推進員であるとともに北海道ハーレー警ら隊という団体にも所属して活動しています。北海道ハーレー警ら隊というのは、ハーレーダビッドソンの愛好家の集まりであり活動内容といたしましては、パトロール活動始め交通安全活動や防犯活動などを行っております。パトロール活動では先ほど見ていただいた写真のようにハーレーに乗車し、白バイやパトカー・自動車学校などと協力して各警察署の管内を走行するなどの交通安全活動にご協力させていただいております。毎年8月には標茶町で二輪車交通事故防止啓発を大々的に実施しております。今年も白バイや警察署のパトカーと合同でパトロールを実施し、大変盛り上がりました。これがその時の写真となります。この啓発は8月19日のバイクの日になみ実施しております。今年バイクとキャンピングカーを合わせて60台ほどが参加しました。行程は標茶町役場から多和平までの約20キロ、時間にして30分程走行し、おそらく道内では最大規模のバイク啓発だと思います。これは斜里町から知床峠まで実施してきた時の写真です。知床峠までパトロールを実施したのち、参加した人たちが啓発活動も実施しました。しかし、このハーレー警ら隊も明後日の11月10日をもちまして解散することになりました。11月10日の午後4時から北24条にあります札幌サンプラザコンサートホールで解散式が開催されます。北海道警察音楽隊のコンサートなど催しもあります。ぜひ時間のある方、お越しいただければと思います。解散後ハーレー警ら隊としての活動がなくなりますが、私が地域交通安全活動推進員である限りは、警察やハーレー警ら隊の仲間と共にハーレーを使用した啓発活動も実施していきたいと思っています。以上で私の発表は終わりになります。ありがとうございました。

## 釧路市役所市民環境部市民生活課 交通安全推進員

### 佐藤 絵美

釧路市役所市民生活課交通安全推進員の佐藤と申します。釧路市の交通安全教室の活動状況になります。令和4年度交通安全教室の回数と教室を受けた人数になります。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の観点から、以前と比べると回数・人数ともに増えてはいますが、まだまだ何件か教室がキャンセルになってしまうといった状況なので、例年よりも回数・人数がかなり減っている状況です。合計136回13,104名が交通安全教室を受けてくださっております。今年度は教室がキャンセルや延期というものがないので、コロナ以前の教室回数・人数になってきているという感じです。9月までの累計です。高齢者ゼロ回

とありますが、高齢者の交通安全教室が大体 11 月ぐらいから開始なので、今年度はまだゼロになっております。92 回 9,535 名、教室を受けてくださっております。

幼児の教室の写真を見て行きたいと思います。こちら人形劇の写真になります。若干見にくいですが、季節に合わせて、装飾を変えていております。冬の場合は帽子ですとか、マフラー・手袋・雪の結晶などフェルトで釧路市の推進員 4 人で意見を出し合い、作成しております。夏は花や蝶々、秋は落ち葉など作成しております。その他、腹話術ですとか、ジャンボ紙芝居、屋内での実技指導、屋外での実技指導になります。こちらにありますジャンボ紙芝居も私たち推進員が手書きで書いております。

次は映画ですね。16mm のフィルムの映像教材、あとカルタ。体操では、安全確忍者と言って忍者のポーズをたくさんとって右をみて左を見て、たくさんポーズをして学んでおります。同時に着ぐるみを登場させることもあります。着ぐるみはうさぎ・りす・パンダ・ねこ・とら・さるの計 6 種類があります。その他、パネルシアターでお話することもあります。

次にデジタルシアターと言い、動く紙芝居を作成しました。このように、話をすると動いていく感じになります。セリフに合わせて動物が動いていきます。横断歩道の渡り方、さらにチャイルドシートはしっかりとシートベルトを締めて乗りましょうというお話。これを幼稚園や保育園・認定こども園さんで行っております。冬になるとまた違ったデジタルシアターも作成し、手を挙げて右を見て左を見てもう一度右を見て進みますというような感じで作成しました。雪山では遊ばないというお話。季節に合わせてですね、話を作成し、デジタルシアターも作っていくという感じです。横断歩道の渡り方に加え、急いで渡っていると転んでしまって、うさちゃんが釧路ならではの鶴に助けられるというストーリーになっております。

次に小学校児童館の教室になります。屋外でのグラウンド実技。屋内での体育館、体育館実技、自転車、実技、ダミーの衝突実験の他、警察の方たちに指導していただいたりしております。都合のつかない場合は、私たち推進員のみで行うこともあります。そして DVD 学習や、このように交通安全テストというのも行っております。パワーポイントで説明してからのテストの実施となります。これは小学校中学年用のテスト用紙ですが、こちらは高学年向けになります。小学生の低学年ですと、テストちょっと難しいかなと思いましたが、実施しているなら中学年から高学年のテストになっております。

次は高齢者の写真になります。高齢者の交通安全教室では、主に DVD の視聴、反射スコープで反射材を見てもらう反射実験というのを行っております。パワーポイントによる講話、標識ビンゴというものを作り、楽しんで交通安全について興味を持ってもらおうと努力しております。ビンゴはどのようなものかといいますと、このように何種類か用紙を作成しまして、高齢者の方と一緒にビンゴをおこないます。勉強熱心の高齢者の方は、イラストの下に意味なども記載してくれる方もいます。ビンゴに当たった方、先着 5 名様には、なんと景品が当たるようになっておまして、反射材ですとか日用品ですとか選んでもらって

る写真になります。

最後に高齢者向けにシルバーリーダー研修会というものを行っています。どのような研修かというと、年に4回老人クラブの会長さん、その他高齢者の方と警察、市の職員で、大型バスを借りて事故現場に行きます。そして多発している事故現場で、どのような事故に気をつけたらいいかというのを、質疑応答交えて話をしているところです。その場で警察の方の講話もいただいております。その後会場に戻りDVDの視聴をして、まとめをして終わりというのがシルバーリーダー研修会というものになっております。あとは、市役所の新採用研修ですとか、交通違反をしてしまった人に年2回交通安全研修をしております。その他出動式、ゼロの日、子供・高齢者街頭啓発に私たち参加しております。以上、釧路市の交通安全教室の活動状況です。ありがとうございます。

## ■活動事例発表を元にした意見交換会

特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長

宮田 美恵子

まずは3名の皆さんご発表いただきありがとうございました。本当にそれぞれオリジナリティ溢れていてですね。とても興味深く拝聴しました。ありがとうございました。では皆さんの活動での質問・困り事など、皆さん活発に挙手をいただければと思います。いかがでしょうか？

●：新年度からのヘルメットの着用が重要視されております。やはりもう少し、学校が主体となった子供たちの自転車教室をたくさんこれからも進めていく計画を立てていただければと考えております。私も今年から帯広市で自転車教室をグラウンドでやりました。100人ぐらい集まり、ヘルメットの付け方や自転車の修理も行い、かなり成果が上がりましたので、ぜひ皆さんに、そういうことを計画していただけたらいいかなと思います。

宮田先生：ありがとうございます。ぜひ皆さんに計画していただくにあたって、例えば、どんな教室をやったらこんなふうに変ったなど教えていただけたら参考になります。

●：自転車に乗る前に、しっかりと左右の確認の時間をかけて見て、それから自転車に乗る。そういう気を付ける場面や、歩行者と違うという意識を持たせました。やはり自転車は事故に繋がる人が多いので気をつけますっていう子供たちが多数いました。

宮田先生：ありがとうございます。自転車は歩行者と違うということ子供たちが受け止めてくれた手応えがあったってことですね。せっかくヘルメットというキーワードが出ましたが、ヘルメットは本当に今、もうみんなが取り組まないといけないことです。今、ご発表いただいた方の中でもヘルメットについて触れていらっしゃるのが西区さんの発表の中でも、ヘルメットについてありましたが、このセーフティ自転車ライダーについて特徴あったら教えていただいてもよろしいですか。

●：西区では子供用のヘルメットを実際に購入してそれを見せています。それから研修に参加した人たちからヘルメット触ってみたい、どんなものなのだろうっていうこともあるの

で、触っていただくということもしています。だから、子供達に配っている「セーフティ自転車ライダーのスズメ！」のパンフレットについても、自転車の乗り方、自転車安全利用五則も載っていますし、自転車の乗り方今まで知らなかったようなことも見返してもらえませんかと思うので、配れる機会においては配って見ていただいております。

宮田先生：この冊子サイズは、手に持てるぐらいの大きさなのですか。

●：A6 サイズぐらいです。

宮田先生：いいですね。こういうものにしっかりまとまっている。他にヘルメットについてどうでしょうか。

●：私はオホーツク管内本部長の推進をやっております。私たちの町では、新入学児童に全員自転車用ヘルメットを配布しております。全町的に。ただ、先ほどの説明の中に、対応年数が3年という話もありましたし、子供が大きくなっていくと、だんだんサイズが大きくなってきますので、その辺も、町の方の推進地区推進委員会に要望し、これから考えていきたいと思っています。うちの町は人口4,000ぐらいで新入学生は全部で50人いかないぐらいなので、15年ぐらいやっています。子供たちは高学年になるとだんだん格好つけてしないのですが、カッコ悪いのもあれだけど、サイズが小さくなるのだと思います。その辺も町に考えていただきたいと思っています。

宮田先生：ありがとうございます。50人とはいえ、10年前から、ずっともう被っているということなのですね。子供たちはすごいですね。また、別の話題となりますが、私から伺わせてください。釧路市さんが先ほど発表してくださいましたが、人形劇について教えてください。

●：幼稚園・保育園・認定こども園さんでは、春に1回、夏に1回、冬に1回で計3回行う園と、夏と冬2回行う園、それぞれの園側の希望で教室を行っております。私たちは教室の最後に3つの約束と言いまして、道路で遊ばない、道路に急に飛び出さない、手を上げて右と左を見て渡る、という3つの約束をイラスト付きでお話してから帰ります。3回目になると、どの子供たちも口揃えて、この絵は手を上げて、横断歩道右左見て渡るんだとか、道路で遊ばない話だとか、やっぱり回数を重ねると頭に入ってくるというのは身に染みて分かります。

宮田先生：素晴らしいですね。子供達の印象に残る指導の仕方をされているのだろうなど。その成果だと思います。ありがとうございます。また、西区さんでは高齢者に対する交通安全教室をやっていらっしゃるっていう発表がありましたよね。そこで意識を持ってもらえる教室を行っていますというご発表があったのですが、今と同じような質問で手ごたえなどをぜひ教えてください。

●：高齢者の教室では色んなことがあるのですが、自転車の乗り方や、昨今ヘルメットの着用について改正があったことから、今年はそれについても重点的にお話をし、ヘルメット着用時と着用していなかった時の頭への衝撃についての映像を見ます。自転車の乗り方について実はルールが分からない方がたくさんいて、その話をただで、そうだったんだとい

う理解度は深まっている感じはします。

宮田先生：ありがとうございました。先ほど、彦坂先生と標識のことについて話をしておりました。運転免許取らないとなかなか標識を覚えるチャンス、実はないですねということですね。釧路市さんでは標識を、高齢の方にビンゴでゲームのようにしてこう教えており、とても興味深かったのですけれども、この標識について何かありませんでしょうか？

●：富良野市です。標識のことで言うと富良野市は、交通安全教室の時に教材としてストラックアウトみたいのを作り、抜けたところの裏に問題が書いてあって、クイズに答えてもらうっていう形のゲームを作っています。的になるところに標識の絵をつけて、最初に標識の意味をみんなに説明してから、ゲームをしています。

宮田先生：それいいですね。現物をぜひ来年あたり発表していただきたいです。年齢を問わずになんか楽しめそうですね。結構覚えてもらえていますか。

●：そうですね。北海道にはあんまりない標識もあつたりとかするので、勉強になっているようです。

宮田先生：ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

●：たくさんの事例を教えていただいて、とても参考になりました。それから宮田先生のお話も非常に興味深く、本当にこのボランティア活動をしている、ここにお集まりの皆様は本当に意識をもってボランティアで交通事故防止、それから交通事故死ゼロを願って活動していることが分かりました。また、先生のプロフィールを見せていただき警察庁の座長をされているということから、ボランティアも一生懸命交通事故を無くそうと努力しています。一方で私たちのような郡部に暮らす者にとっては公共交通がほとんどなく、返納できないでいます。そこで起きる事故というのは、やはり高齢者が病院へ通う、買い物をする、その中で、やはりコンビニのドアに突っ込んでしまったとか、私たちボランティアでは防ぎようのない事故が多発しているような思いも実は拭えないです。私たちもゼロに向かって本当に手間暇惜しまず活動しているけれども、増えているのは、高齢者の運転による事故。政府はバスの運転手が不足しているタクシーの運転手が不足していると言いながら、80歳でもドライバーを認めるという、そういう方向に行ってしまうような制度が出来そうで、私たちはもう防ぎようのないところで、そういう話し合いがなされているときに、私たちは本当にこう矛盾を感じてしまうことがあります。先生がこの警察庁座長さんをされているというところでちょっとそういうお話を伺わせていただきたいなと思います。

宮田先生：ありがとうございました。本当に重大なテーマですね。本当にそうだと思います。返納と言いつつ、地域によっても本当に様々だし、また高齢者を一括りにしているようなところもあって、これも先ほどもちょっと触れましたけど、人によっても違いがあります。他のブロックに伺った時に、やはりこの返納の話が出まして、返納するっていうことばかりを進めるというよりも、リスクを減らして行ったらどうかと。例えば、毎日車に乗っているところを毎日お買い物に行かず、これを半分にしたらリスクを減らせる。そんなことも参考にしていただくのもありかなと思います。

●：私たちの町ではつい先月、地域交通アクセスをどうするか、その協議会を立ち上げました。先程お話ありましたように、地方に行きますとバス路線の撤退・縮小、公共的な交通機関が予算とともに徐々に少なくなっていくという現状が見えてきているところです。地域全体として考えていかなければならない時代にきたなと言うふうに考えております。

宮田先生：ありがとうございます。とても重要なことですね。地域交通アクセスをどうするかのシンポジウムをなさったと、そして立ち上げてこの横のつながりがどんどんできていっているところだということですよ。これは本当に重要なことで、つながりを持って良い知恵を出し合っていくことは、また大事なことだだと思います。ありがとうございます。

## ■講評

まず始めに発表された西区のご発表ですが、1枚めくった時に目に入ったのが、年間180回も小学校などで活動されているという。この活動の活発さと、この交通標識の写真です。とてもいい写真だと思いました。子供たちが一生懸命、私はわかるよってこう手を挙げてくれている様子、子供達と一体になってやっているのが伝わるような、とてもいい写真だなどと思いました。この交通標識のことは様々な方法で広まっていくといいなと思っております。「とまる・みる・きく・まつ」で聞くのところにも力を入れてらっしゃって、車が高性能で音があまりしないので、近づいてきてもよく分からないということもありますから、この聞くってということも、見ると同じようにしっかり幼い時から身につけることは、とても重要なことだと思い拝聴しておりました。高齢者の交通安全について、先ほども伺いましたけれども、それぞれに意識を持ってもらえているようだという手応えも教えていただきましたので、大切な活動がたくさんなされているなど感じた次第です。とても素晴らしいご発表でした。ありがとうございます。

次に静内地域のご発表ですが、現在89歳でいらっしゃるとう何十年、地域のために一生懸命して下さってきたのかと思います。石垣さんの姿が今、皆さんのシンボルのようになっているのだと思いますが、これが地域の安全教育の先生の姿です。素晴らしい事だと思ってお話聞いていました。また様々な賑やかで珍しい啓発活動やイベントの様子なども知り、こういう活動があるのだなどと思い本当に驚きました。お体に気をつけてぜひ引き続きご活用いただけたらありがたいと思います。

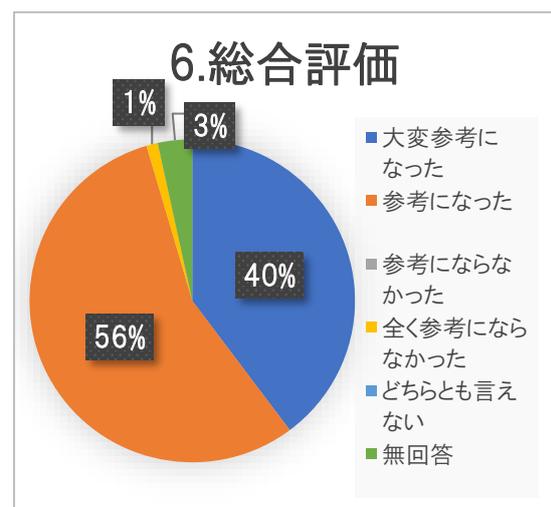
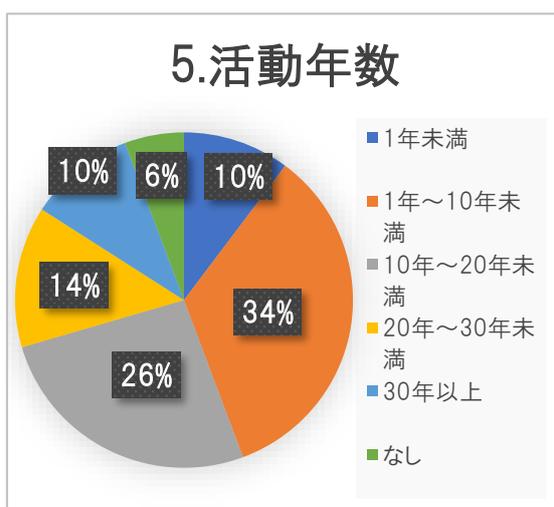
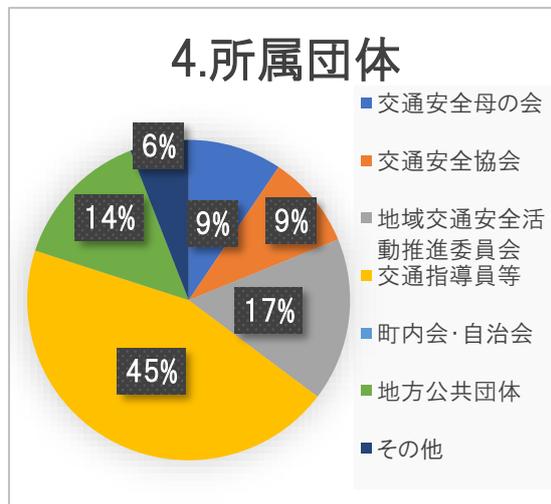
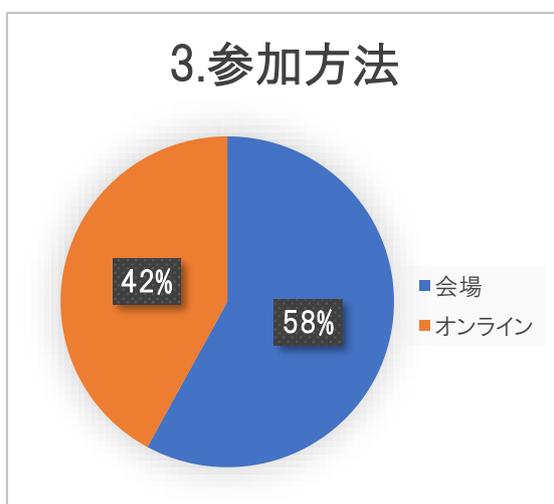
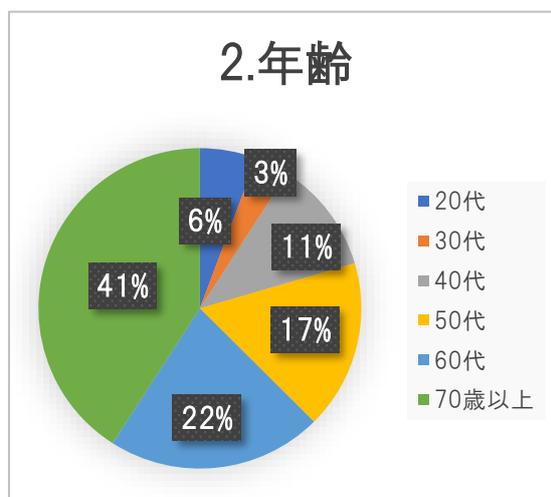
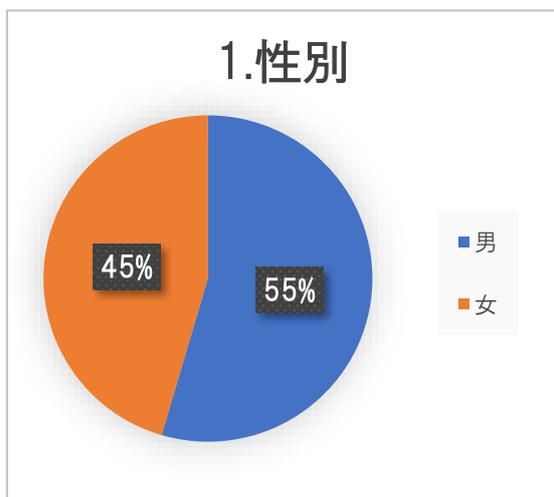
次に、釧路地域ですがこれはなんといってもハーレーですね。ハーレー警ら隊。これも知りませんでした。道内で最大規模があらうとおっしゃっていましたが、これはすごく目立ちますし、重厚感があって目を引きますよね。北海道にぴったりのスケールだなどと思い、素晴らしいなと思いました。残念ながら解散ということで、理由もお聞きしたかったのですが、本当にこれは皆さんの目に焼き付いている警ら隊の姿だと思います。本当にありがとうございました。

最後に釧路市ですが、本当にたくさんの認定こども園、認可外から児童館も含め幅広くた

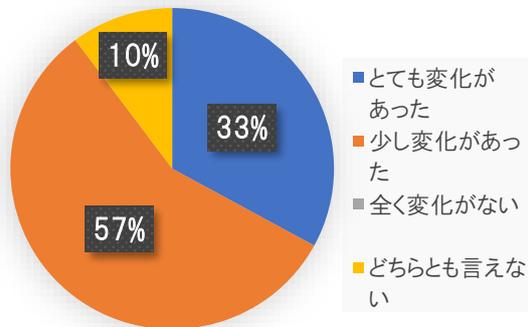
くさん回っていらっしゃるということが分かりました。また、子供たちが喜ぶように、印象深く覚えてくれるように、いろんなことを工夫してデジタル紙芝居を作られていて興味深く拝見しました。本当に活動の様子が見えるようでした。ありがとうございました。

本当に皆様方、この 4 名の発表も含め重要なテーマも提起していただきましたし、本当に皆様方の活動の熱心さ、問題意識の高さということが、本当によく分かりました。私も大変勉強させていただいた気がいたします。地域の安全、交通安全、教育の先生として姿をお見せいただけると、ありがたいなと思います。今日はありがとうございました。

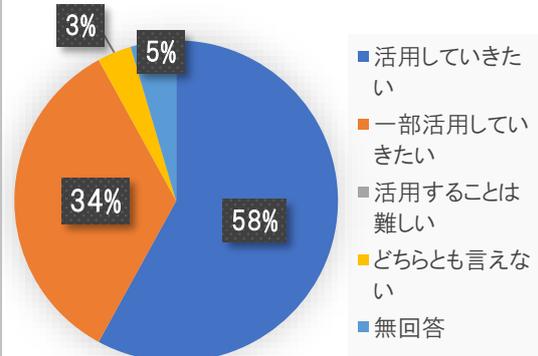
### 3.アンケート集計結果



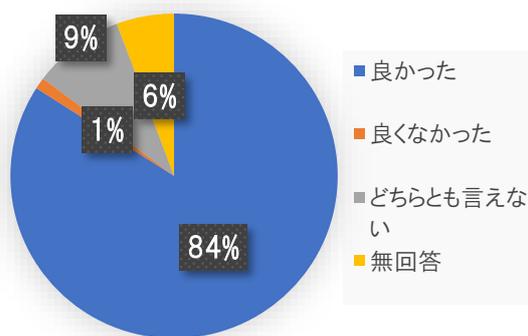
## 7.意識の変化



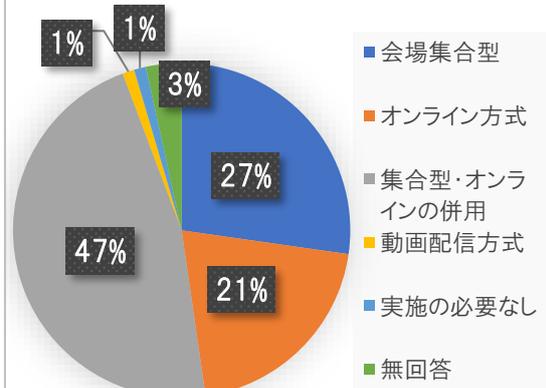
## 8.講義内容の活用



## 9.実施方法



## 10.来年度の実施方法



### ⑪今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・高齢者への安全教室について、お考えいただけると嬉しいです
- ・各市町等の活動状況をもっと出してほしい
- ・冬の交通安全について
- ・北海道ならではの効果的な交通安全教育（環境・道路状況）
- ・子供、高齢者に対する交通安全対策はとても大事なことなのでまたお願いしたいです
- ・飲酒運転根絶を目指しているが、未だに数が減らない理由や飲酒運転根絶に向けた・取組事例等の意見交換など
- ・高齢ドライバーの免許返納問題
- ・教室で実施する具体的な手法、話し方
- ・免許返納について
- ・電動キックボード
- ・高齢者、幼児、小学生、高校生、大人の自転車

- ・高齢者の免許証返納について
- ・交通事故被害者の会等、直接事故被害に遭った方や家族の方等の話により、事故に遭った後の精神的、肉体的な話が聞きたいと思う
- ・交通安全を教えていくのに、何歳児にはどういった教え方が効果的かなど、教育をしていく上でのこどもの特性などを知りたいと感じた
- ・冬道についての講話
- ・自転車の乗り方等、まだまだ周知されていないところがあると思います。刑罰を含めてもう少しわしく
- ・冬期間での指導員の街頭啓発
- ・自転車のヘルメット着用について
- ・雪が多いので、大雪や吹雪のときの活動についての機会があれば参加したい
- ・自転車、高齢者について
- ・シートベルトの必要性。後部座席では一般道路での着用がまだまだ少ない。チャイルドシートの正しい付け方、面倒できちんとつけない人がある
- ・資料と話しの誤りがありわかりにくい。動画を取り入れてほしい
- ・高齢者の交通事故について運転操作の間違いによる事故原因を詳しく周知してほしい。被害者となった時も含めて

⑫本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・この方法でよいのでは
- ・仕事をしながら学んで行ったり、自分で検索して勉強したり、スケアードストレートの見学
- ・全体では意見が上がりづらいので、グループワークが効果的と思いました
- ・標識に対する認識を高めるためにゲーム感覚は参考になりました
- ・実演、実施を取り入れてほしい
- ・子供たち（小中学生）への交通安全運動教室の実施回数を増やしてほしい
- ・統計的な集計した話ではなく、具体的事故事例により具体的に反省検討を要する事例的な話が聞きたい
- ・毎日の啓発活動を通して変化を感じることが大事と思う
- ・ボランティア中に事故現場に遭遇した時の対処など
- ・信号が青で歩行者が渡ったあとの左折の車の誘導の仕方、歩行者がまだいて渡るときの左折者の止め方
- ・講習を実施するに学科と実技というようにいったらどうか

⑬本講習会の運営、スタッフについて

- ・会場の参加者の名簿の文字が小さく見えづらい
- ・大変良かったです
- ・大変スムーズな運営をされていて、ご苦労様でした
- ・Zoomでの参加は、参加する方のZoomの使い方など理解を深めた方が良いと思います。
- ・大変良かったです
- ・丁寧に対応していただきありがとうございました
- ・スムーズに進行出来てありがとうございました
- ・事例発表に対する意見交換より、質疑のみにし、意見交換はテーマを決めて実施したほうがより意見が出るのではないのでしょうか（話が広がりすぎてしまうので）
- ・そもそもHISとは？検索してもわからなかった
- ・とても親切
- ・全体的に良かったと思います
- ・対応については良好でした
- ・特に問題ありませんでした。ありがとうございました
- ・良かったです
- ・オンラインのためか、聞きづらい面も
- ・Zoom参加の市町村に開始前にZoomの確認をとって
- ・時間が少ない項目もあったので少し残念でした
- ・オンラインのため、モニターを見ての受講でモニターの文字が見えないに等しく残念でした。質疑応答の際の質問者の声が聞きづらくまた長くて何を話しているかわからず、質疑応答なくても良いのでは
- ・宮田講師の説明とスライド、配布資料が一致せず、とても分かりづらかった。要改善
- ・申し分なしです

⑭その他ご意見

- ・交通ルール、自転車ルール大切ですが、自転車道の整備、矢羽線ではなく取り組んでほしい
- ・事例発表の延長（15～20分）
- ・標示について大変勉強になりました。いろいろな会合で皆様にお知らせしたいと思います
- ・グループワークで発表をすると意見交換の際、もっとスムーズかと感じました
- ・初めての参加でしたが、他の地域の活動内容がわかって、参考にできることはやりたいと思います
- ・ありがとうございました。また次回実施の際にもぜひ参加したいと思います
- ・ドライバーはスピードを落とし、ハイビーム活用について【暗く視界の悪い場所では】と

頭につけてはどうかと思いました。ハイビームが元で車同士のトラブルも多いと思いますので

- ・今年4月に役場に採用され、交通安全に携わるようになり、前年度までの実施結果や指導員さんにご指導いただきながらなんとかやっています
- ・今日は大変勉強になりました。ありがとうございました
- ・事例発表後の意見交換の時間に、強引に意見を求める等は改善してほしい
- ・意外に参加者が少ないと感じました
- ・具体的な指導ポイントなども含めて、ご教示いただきとても参考になりました
- ・意見交換の際、コーディネーターが細やかに気を配って発言をうながしていたことは良かった
- ・意見交換会の時間をもう少し多くして各地の活動事例を多くしてほしい
- ・今回オンライン参加させていただきました。1台のPCからプロジェクターを用いて投影を行い、複数人で参加させていただきました。ただその環境だと追加資料がZoomに届いても印刷することができなかったため、今後可能であればメールにも送信をお願いしたい
- ・資料の訂正については、できる限り講習前をお願いしたいです。普段なかなか他の地区の活動を見聞きする機会がないので、活動事例はとても参考になっています。釧路市の交通安全教室のお話などは特に興味深く大変参考になりました
- ・6期60日の啓発活動を通して安全確認してもらいたい
- ・グラフが白黒でよくわからない。カラーにしてほしい
- ・説明の資料がない。そのため大変難しい
- ・オンラインであったため、意見交換で発表している人たちの声が聞きづらく、何を話しているかわからない部分がありました
- ・ヘルメットを着用してもらうにはどうしたらよいか
- ・地域によっては活動内容も違い新しい発見ができた
- ・講演①の資料の文字が全体的に小さく見づらかった。モニター説明の文字も小さく分かりづらかった。写真だけ大きく文字は箇条書きなど必要な文言のみ大きくしてもらえると見えやすくよかった。私が受け取った資料は白黒だったので折れ線グラフはとても見づらくわからなかった。資料が沢山あり進むのがとても早く内容が理解しづらかった。事故VTRは時間がないとのことで見られなくて残念でした。60分でこの資料説明は収まるのか事前に通して計ったのか。もう少しゆとりのある話の進め方が良かった
- ・講演②は資料が見やすく、説明もゆとりもあり良かったです
- ・資料の配布がカラーではなく、白黒で大変見づらい
- ・全体的に高齢者が多いのでこれからも該当指導等で機会を多くするべきと思う
- ・高校生が小学生、幼児に指導する発表が参考になった。指導員多数参加を望みます
- ・歩行の速度、どの位低下しているか知りたいです

#### 4.写真

##### 【北海道ブロック】



開会挨拶 内閣府 毛利参事官補佐



会場の様子



講演 彦坂先生



講演 宮田先生



活動事例発表



活動事例発表

# 東北ブロック

## 1.プログラム詳細

11月1日(水)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(秋田県)
10:40～11:40	60	講演① 千葉大学 名誉教授 鈴木 春男 「高齢者に対する交通安全の動機づけ」
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 黒井産業(株)黒井交通教育センター本部／東北公益文科大学 サステナブル・モビリティ研究所 奥山 祐輔 「子供の交通安全・雪道の安全運転～効果的な学習方法を考える～」
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	35	活動事例発表に関する意見交換会
15:40～15:50	10	講評(コーディネーター) 千葉大学 名誉教授 鈴木 春男
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

## 2. 講義等の記録

### ■ 講演①

千葉大学 名誉教授 鈴木 春男  
「高齢者に対する交通安全の動機づけ」

#### 1. 高齢者事故の背後にあるもの

- (1) 意識と行動のミスマッチが事故を招く（年はとっても、気持ちは若い）
- (2) 過去の経験にとらわれる  
高齢者の交通事故の約半分は自宅から 500メートル以内、75%は1キロ以内で起きている（活動範囲が家の近くにあることにもよるが……）  
「慣れ」がこわい
- (3) からだの力も低下する  
動体視力の低下、暗順応の低下、反応時間にムラ、筋力の低下など  
でも、それらのかかなりの部分はちょっとした気遣いで、補えるものが多い
- (4) たくさんの情報を同時に処理することが苦手になる  
からだの力の低下よりも、こちらのほうが重要なポイント  
若い学生との競争（信号だけのケース、そこに音・ブザーを入れるケース）  
新しい事実に関心が向かうと、その前の大事な情報を忘れてしまう  
cf. 2階に忘れ物を取りにいったら、風で書類が散らばっていた→「何をしに？」  
（その程度なら許されるが）横断の時、左からの車に気づき一度は止まりながら、右側の路地から出てきて、前を横切った車に驚いたとたん……  
できるだけ単純な判断で交通行動ができるように⇒考えごとをしない、複雑な交差点を避ける、あらかじめ地図を頭に入れておく、話に夢中にならない…
- (5) 生活に充実感・満足感を持っているお年寄りには事故が少ない  
「悩みごとのないこと」はとても重要。たとえ悩みがあっても、聞いてくれる家族や友人がいると解消。居住年数の長い、友人の沢山いるお年寄りには事故が少ない  
老人クラブに参加しているお年寄りに事故が少ないのも、それが原因の一つ

#### 2. 高齢者に対する交通安全指導の視点

- (1) 高齢者を画一的に見ない  
その多様性に注目すべき。高齢者はさまざまな交通環境におかれている  
営まれている生活の内容により、抱えている問題も異なっている。つまり、高齢者全体を同じ特性を持った人たちとして見るのではなく、個の視点から発想していくべき。それぞれの生活実態に応じた交通安全指導が必要
- (2) 地域に密着した視点が必要  
そうした個としての特性を決めるものの一つは、居住している地域の特性

cf.大都市では公共交通機関が主たる移動の手段となっているが、地方小都市では家族や友人の車に乗せてもらったり、あるいは自分で車やバイクを運転せざるを得ないといった状況もある

### (3)生活構造を中心とした視点

これも個としての特性を決める重要な要因だが、生活構造という視点がある。

cf.高齢者が夫婦とも健康で、友人も多く、生活に満足している場合は安全意識も高く、安全な交通行動をとることが多いが、家庭生活の不満を外での散歩や運転によって解消するといったケースでは事故を起こす確率も高い

### (4)高齢者を弱者としてのみ扱わない

日本の高齢者は経済的・生活的には自立しているのに、交通分野では弱者としてのみ扱われる傾向がある

cf.内閣府が行った「高齢者の生活と意識」に関する国際比較調査⇒日本の高齢者は働けるかぎり働き、自立していこうという意識が高い。それなのに、こと交通分野では弱き者、保護の対象といった形で扱われることが多い。高齢者もまたそれに甘える傾向がある

高齢者を大事にすることは重要だが、交通分野でも自立してもらうことが必要

高齢者の生活は比較的安定し、時間的ゆとりもあって、社会参加意欲も高い

他の人の安全のためにひと働きしてもらう余地は十分にある。他の人のために役立つことが、自分をも安全に向けて動機づける機能をもつことに注目すべき

### (5)高齢者の柔軟な発想に期待する

指導者は、高齢者に柔軟な発想や対応をしてもらうには、どうしたらよいかということを中心に頭におくべき。実のところ高齢者には、身体だけでなく心理的にも「固さ」が見られる。高齢者は「交通法規を守ってさえいれば安全は保たれる」とか、「私に限って、事故などにあうはずがない」といった一種の思い込みが強い。これをどのようにして解消するかが重要な課題

### (6)他人と関わる場をつくる

「固さの解消」のためには、自己中心的な発想を避け、相手の立場で考えてもらうような場をつくることが重要

そのためには地域社会のことを考え、他人とかかわる場を多くつくることが必要で、交通安全指導の場でも、知識や情報を一方的に受けるのではなく、自らが積極的に参加する場をつくることが重要

また、高齢者の目線からみた交通環境への提言を求めることも重要。高齢者の交通環境の改善については、高齢者でなければ気がつかないことも多い。高齢者は自分たちの安全のために積極的に発言すべきだし、交通安全指導の場でもそうした機会が作られるべき

### 3. 人間の行動と動機づけ－仲間づくりも立派な交通安全教育－

- (1)人は誰でも「自分は間違っていない」と自分を正当化したがる  
L.フェスティンガー：認知的不協和の理論  
相手に「正しい注意」「相手のために思っただけの注意」「誠意をもった注意」をすれば、必ず相手はわかってくれる？
- (2)「問題の発見」が安全な行動をもたらす  
「分かっちゃいるけどやめられない」のが人間  
問題を見つけてもらわなければ、いくら正解を与えてもダメ  
cf.「横断歩道は青でも直ぐ渡らないで、次の青になったら渡りましょう」  
身（行動）は年をとるが、心（意識）は年をとらない⇒隣は10秒、でも私は5秒、  
「だから私には関係ない」
- (3)参加の場が考え方の修正や態度変容をもたらす  
相手との人間関係に「参加」することで、相手の立場に立ってものを考える  
cf.経営参加、懸賞募集、モニター制度  
役割を演じることによる動機づけ、相手を受け身にしたのではダメ

### 4. 参加型交通安全教育の具体例

- (1)「ネイバーフッドウォッチ」：アラバマ州タスカルーサ市  
一人暮らし、老夫婦住まいの高齢者宅訪問による子供たちへのボランティア教育  
高齢者による子供たちへの交通安全指導  
「子供へのボランティア教育」もさることながら、「高齢者への交通安全教育」  
「情けは人のためならず」  
⇒「ヒヤリ地図づくり」「世代間連携交通安全教育」「いきいき運転講座」
- (2)ヒヤリ地図づくり  
自分達の日常的な活動の範囲を話し合いで決め、その白地図をコピーと糊付けでつくり、どんなヒヤリのケースを取り上げるかを定める。その上で、地図上でヒヤリとした体験のある場所にシールを貼っていく。そして多くの人が指摘したヒヤリ多発箇所については参加者が自分のヒヤリ体験を具体的に説明し、注意を促したり、改善すべき点を話し合う。そしてさらに、地図の出来栄を評価し合い、それを他の人にも見せてさらに提案してもらったり注意を喚起する
- (3)世代間連携交通安全教育  
高齢者と孫の世代、それに中間世代としての子供たちの両親の三世代に交通安全教育の場に参加してもらうことで、お互いの立場を理解し合い、他の世代への注文やアドバイスを通して自分自身を動機づける効果をねらっている。高齢者が孫世代に対し、安全をアドバイスする機会（役割を演ずる機会）を持つことで高齢者自身が安全

を守ることに動機づけられる

⇒「情けはひと（他人）のためならず」

#### (4)いきいき運転講座

日本自動車工業会「高齢者ドライバーの交通安全教育システム」検討委員会で開発。誰でもがリーダーになれ、誰でもが参加できる。講師を呼ばなくても、自分たちの力で講座が進行できるように台本が準備されており、仲間づくりに役立つ運転をしない人も参加できる。自転車、歩行者、助手席の立場から参加することが歓迎される。車を運転しない高齢者が話し合いに参加することは、ドライバーが歩行者や自転車利用者の立場を理解する上で、また歩行者や自転車利用者もドライバーの立場を理解する上でプラスになる

いろいろな場で使える工夫が凝らされている⇒老人クラブの集まり、地域の自治会、ボランティアの集まりなどの他に、企業の従業員や、退職者された方々など、誰でもその気さえあれば使ってもらえるような工夫が凝らされている

■講演②

黒井産業(株)黒井交通教育センター本部／東北公益文科大学

サステナブル・モビリティ研究所 奥山 祐輔

「子供の交通安全・雪道の安全運転～効果的な学習方法を考える～」

1. 子供の交通安全

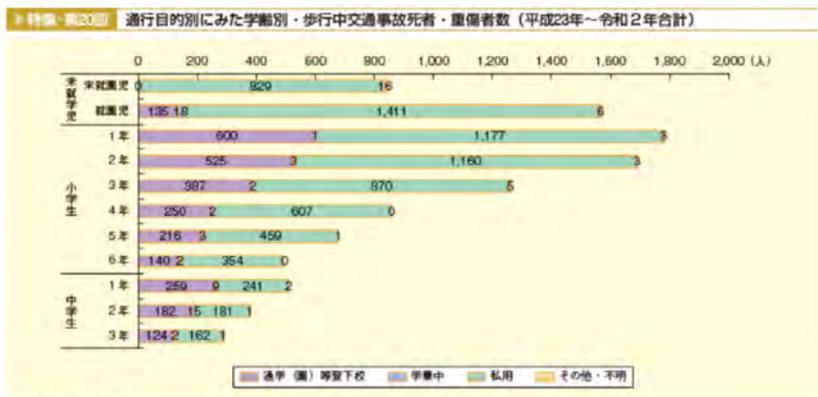


歩行中の死者数が多い！！

状態別死者数の推移（警察庁交通局，2023）

<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bunseki/nenkan/050302R04nenkan.pdf>

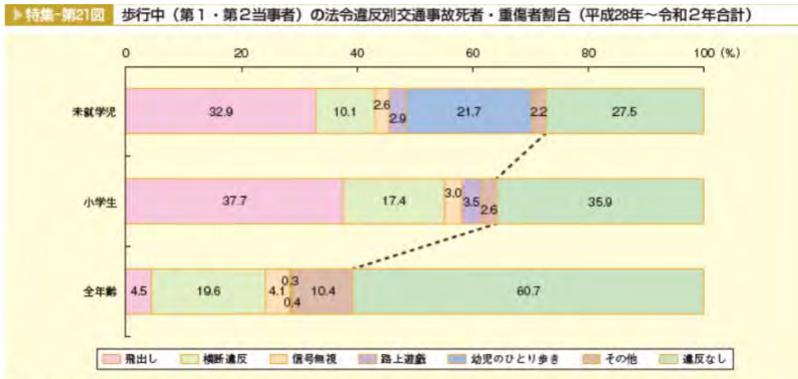
- ・交通事故は年々減っている
- ・状態別死者数は歩行中の死亡者が1番多い
- ・子どもにおいても「歩行中」が最も多く、未就学児については65.6%、小学生については56.5%を占める



注：警察庁資料による。

- ・通行目的別にみると、未就学児については「私用」が大多数を占め、小学生については「私用」が半数以上を占めているが、学年が上がるとともに「私用」の交通事故死者・重傷者数は減少している
- ・小学生の通行目的別死者・重傷者数を見ると、登下校中が約4割と、登下校中の事故も多い

⇒全体の事故を減らすために、登下校中の事故を減らすことは重要



注1 警察庁資料による。  
 注2 「幼児のひとり歩き」とは、保護（監護）者の付き添わないものをいう。

・未就学児や小学生は全体と比較して、飛出し等による法令違反の割合が高い  
 ⇒子どもの場合、意図せずに（突発的なもの）結果的に違反となっていることも多いのではないか。そのため、子どもに対する交通安全教育が重要である

### 事故統計から読み取れること

- ・交通事故は減少傾向 「歩行中」の事故が多い
- ・未就学児・小学生ともに「歩行中」の事故が多い
- ・小学校1～2年生（7歳）が多く学年が上昇することにより事故は減少する
- ・通行目的別では「私用」が多いが「通学中」も多い
- ・中学生になると「私用」と「通学中」がほぼ同じ割合になる
- ・背景には法令違反の多さがあり、未就学児・小学生は法令違反の割合が高い
- ・大人の歩行中の法令違反は減るが運転手としてはいかがなものか・・・

### 交通安全対策 5E

- ・ Environment（環境）
- ・ Enforcement（強制・規制・指導）
- ・ Engineering（工学・技術）
- ・ Example（事例・模倣）
- ・ Education（教育） → 効果的な学習方法

⇒日本は、Enforcement（強制・規制・指導）、Education（教育）が優秀と言われており、小さな島国で国土も狭いのに交通環境が整っていると東南アジアから評価されているが、評価されている教育は免許取得時の運転者教育が主ともいえる。学校での交通安全教育や免許取得後の運転者教育は優れているとは言い難い。全般的に効果的な学習方法を考える必要がある。

## 子供の交通安全対策 Education (教育)

### 保護者などによる監視 (Parental Supervision)

⇒保護者が自身の子どもに物理的に接近し何らかの介入をする準備状況にあること (Morrongiello(2005))「監視」という言葉はネガティブイメージが想像されるが、保護や支援といったポジティブイメージと考える

### 子供に対する教育・学習方法

発達段階に応じた学習方法が効果的であり、受動的な学習と能動的な学習の使い分けが必要である

—受動的な学習の例：家庭・学校・街頭などで交通ルールやマナーを注意する等、一方向の学習スタイル

—能動的な学習の例：グループなどで交通事故に遭わないために必要なことなどを話し合うグループ学習や子どもに考えて貰うような質問をする双方向の学習スタイル

⇒能動的な学習の効果が受動的な学習に比べて高いと皆さん考えると思うが、一定の知識や経験や学習能力が身につけていない場合は受動的な学習の効果が高いといえる。何歳くらいから能動的な交通安全学習が可能なのかを考えたときに思ったより低年齢であるかもしれない。その指標の一つとして「メタ認知」という概念があると考え

### メタ認知

・メタ認知とは、自分が認知していることを客観的に把握し、制御することであり、客観的な観点は能動的な学習のスキルとしては必要な要素と考える。さらにメタ認知能力は「自分は何が出来て何が出来ていないのか」の自己認識や改善のための知識も含まれると言われており、このような能力は能動的な教育のレディネスとして重要な要素と考える

・幼児はまだメタ認知能力が発達していないといわれているが、Flavell (1970) によると小学生2・3年ぐらいになるとメタ認知能力が発達してくると言われており、能動的な学習で効果を得られる可能性が高くなってくると思われる

### スケアードストレート

「スケアードストレート」という教育法は子どもに「恐ろしい」(スケアード)と感じさせることで、正しい行動(ストレート)をとることの必要性を学ばせるものとされている。

⇒交通安全教育においては、スタントマンが交通事故の現場を再現し、危険性を体感することによって危険行動を制御する効果がある。恐怖により行動変容を期待する教育手法は発達段階に応じて精神的に負担といった問題も考慮しなければならないが、逆に恐怖を軽減することにより学習目的が適切に得られていないこともある。全般的に学習は楽しく行うのが理想的であり効果的と考えるが、例えばスケアードストレートを体験した生徒の感想で「楽しかった」といった声を聞いたとすれば、これはスケアードストレートの学習目的からは逸れており改善が必要である。学習は目的を明確にしてそれを達成するために行われ

るべきであり、学習方法は対象や目的により適切に選択すべきである

### 学習プログラムの紹介（楽しく学べる学習プログラム）

「天使と悪魔プログラム [気持ちを振り返る：天使 vs 悪魔]」

⇒様々な交通状況のシチュエーション写真を見せていき、「悪魔のささやき」と「天使のささやき」の2つの気持ちを想像した上で、自分がどのような行動をとるかを問う学習プログラム

このプログラムはドライバー教育でも注目されている感情コントロール学習を学校交通安全教育用にアレンジしたものであり、事故を起こさないように日頃から注意していても、友達と一緒にといった環境やその時の感情で危険行動をとってしまうこともあることに気づくこと等を学習目的とし、天使や悪魔というフレーズにより楽しく学習するプログラムである。前述したように学習は能動的に楽しく行うのが理想的との考えから開発されたプログラムである

⇒今回、会場で「自転車のヘルメット着用」をテーマに①近くに買い物へ行く②友達と自転車で出かけるが自分だけがヘルメットを持っている③お食事会にオシャレして出かける、といった3つのシチュエーションでヘルメット着用を妨げる「悪魔のささやき」とヘルメット着用を勧める「天使のささやき」を数名に発表してもらいプログラムを体験していただいた。交通安全ボランティアの皆様でも「悪魔のささやき」が潜んでおり、発表された「ささやき」に頷く参加者が多くいらっしまったようであった

## 2. 雪道の交通安全

### 雪道の安全運転学習事例

- ・雪道、降雪時の危険予知トレーニング
- ・スキッドトレーニング
- ・安全講話(事故事例、事故統計など)
- ・ワークショップ

### 運転行動階層モデル (Keskinen, Peräaho & Laapotti (2010))

安全運転の技能は階層構造を成しており、上位技能が下位技能を支配する

レベル4：人生目標、生活技能、性格

(例 ライフスタイル、欲求、価値観、自己コントロール、習慣、健康)

レベル3：運転目的・運転計画・運転中の感情コントロール（怒り、不安、焦り）

(例 移動手段、目的地、運転状況、同乗者)

レベル2：道路状況認知能力

(例 危険予測、危険対応)

## レベル1：運転技能

(例 ギア、ハンドリング、方向、摩擦係数、速度調整)

⇒運転は操縦技術だけでなく環境や内面なども影響している。操縦が苦手なドライバーは混雑した道路や歩行者が多い市街を避けるなどして安全を担保している場合がある。すなわち操縦技術などを高めることだけが雪道の安全対策ではなくスキッドトレーニング以外にも、運転行動階層モデルのレベル3以上を意識した学習も可能である。例えば究極の雪道の安全対策は運転しないことである。しかしながら全く運転しないということは雪国では難しい対策である。それならば早朝や夜間の凍結するような時間は避けることや遠回りであっても除雪が整っている大きな通りを選択することや、焦りが生じないように早めに出発することや、体調が良くないときは控えるといった判断が雪道の安全運転に効果的である。このような観点にも目を向けて学習することはいかがでしょう

## ■活動事例発表

### 能代市交通安全母の会連合会

金谷 正子

交通安全母の会の金谷と申します。能代市の活動報告をさせていただきます。はじめに、能代市の概要をお知らせいたします。人口は48,559人。令和5年9月現在です。能代市はバスケットの街。50回以上も全国優勝しております。夏は天空の不夜城で七夕が大いに賑わっております。

それでは、主な活動状況について発表します。交通安全運動の協力、子育て・高齢者世帯訪問授業を主にしております。交通安全教室への参加を幼稚園・小学校としております。能代警察署の協力もいただき、一緒に交通安全教室を開いております。この写真は春秋交通安全のパレードの写真です。子育て・高齢者世帯訪問は、子育ておよび高齢者を対象に、交通安全意識の向上と交通事故の防止を目的として行っております。令和4年度からは、子育て世帯30世帯と高齢者世帯を3年間かけて、110世帯を訪問することができました。この家庭訪問には警察署と、高校生アドバイザーの皆さんを含めて一日、10件を訪問することで、終了することができました。また、交通安全教室の参加では、幼稚園、小学校と警察のみなさんの協力を元にこのような形で教室を開いております。以上で報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

### 岩手県交通安全母の会連合会 理事

橋本 信子

皆さんこんにちは。岩手県交通安全母の会一関市地区連合会の橋本 信子と申します。どうぞよろしく願いいたします。私が住んでいる岩手県一関市についてご紹介したいと思います。岩手県の最南端に位置する一関市は、平成17年に合併で、一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の6町が合併して現在の大きな一関市となっております。仙台と盛岡の中間地点で東北地方のほぼ中心に位置しております。人口は約10万6千人で、県内では盛岡市、奥州市に次ぐ3番目の規模となっております。また、世界遺産の平泉中尊寺や餅の種類が全国一多いことも知られております。どうぞ皆さん一関市の方においでになった折には、いろんな餅の種類がございますので。食べてみてはいかがでしょうか。

それでは、東磐井連合会の活動をお話したいと思います。毎月1日にライトの早め点灯を呼びかける広報活動実施をしております。参加者は母の会員、交通指導隊員、駐在職員、市役所の交通担当で、人数は月によって違いますが、背面ライトのブラカードを持ち、運転手にアピールをしております。6月から9月には3世代ふれあい交通安全教室を関内の小学校を持ち回りで実施しており、参加者は子供親老人クラブの会員です。現在は小学校が統合され、人数が多く、スタッフ(母の会)の会員ですけれども、警察安全協会を含めると一つの学校で100名以上の生徒になります。内容は反射材の効果実験、交通安全かるた、クイズ、絵合わせパズルなどです。交通安全かるたは高校生が、1枚ごとに色鉛筆で絵を書いて

くれた大事な連合会の備品となっております。今日は少しですけど、お持ちしましたのでもしよかったら皆さんで見たいと思います。絵合わせパズルは、子供、親、老人クラブの方3人が1組となり、1枚の絵を作り、絵にあった標語を考えて発表します。カルタ取りでは、表彰もあり、豪華記念品のほか、交通課長との握手もあり、子供たちは大変喜んでいきます。普段お巡りさんと握手するってことはないのです、子供たちは喜んでやります。しかし、残念なことに、コロナ禍は実施できませんでした。

また、8月は暑いので冷茶サービスを実施しております。飲み物、飴、梅干し、手作りマスコット、夏の交通安全チラシを配りながら、「暑いので運転気をつけてくださいね」と一言添えて声がけをしております。マスコットは毎年いろいろなものを作り、その年の標語をつけて配布しております。

12月は飲酒運転する機会も増えることから、飲酒運転撲滅「トイレの女神様運動」の実施をしております。こういうものを飲食店に貼らせていただきます。夕方などに直接出向いて許可取りなども行いました。

2月は「必要だよ！チャイルドシート運動」をしております。これは春の交通安全運動期間中に実施し、チャイルドシートは子供に合ったものになっているか確認し、チラシやポケットティッシュ等を配布して、声をかけながら実施しています。

また9月にはストップ・ザ・死亡事故メインルート人垣作戦と題して192か所に交通安全関係者が一堂に集まり、いろんなのぼり旗やプラカードを持参し、交通安全を呼びかけます。

また、秋の全国交通安全運動は、春の全国交通安全運動と同じく、朝の通勤通学時間帯に合わせて各地区母の会が道路指導の実施をしております。黄色のエプロン、黄色のジャンパー、黄色の交通安全ののぼり旗を持った方々で目立ちます。また、東磐井地区交通安全協会の交通安全大会表彰式がこの時期に毎年行われますが、母の会として接待や受付担当のお手伝いをしております。

10月下旬には、文化祭時に「レッツ体験！交通安全フェスタ」と名付け、高齢者の電動車椅子の試乗体験、交通講話、反射材販売の手伝いをします。2日間行い最後にアンケートを書いていただいて、参加していただいた方に交通安全チラシやポケットティッシュ、反射材を配ります。今年も明日これをやる予定です。これは交通安全対策協議会と一緒に実施します。

11月は母の会では、交通安全は家庭からの理念に基づき、子供と高齢者の方まで全地区から絶対に交通事故の犠牲者を出さない為に、「東磐井！交通安全3ゼロ作戦」と名付けて署名活動を行っております。高齢者の交通事故ゼロ、子供の交通事故ゼロ、飲酒運転ゼロの3つのゼロを理解し、署名をいただくため、一カ月の期間を設け、お願いしております。集まった署名は母の会役員と事務局が集計し、12月初めに一関市交通安全対策協議会長一関市長に提出します。この右下の方にある写真が、昨年度の提出した時の写真です。地域の皆さんが交通安全の意識を高め、安全安心な生活ができることを願い実施しております。

終わりになりますが、現在の一関市の母の会現状です。以前は母の会が20団体もありましたが、現在は12団体と減少しました。脱退する理由は子供がいない、若い人が少ない、役員を受けてくれる人がいないなどです。どこの地区も60代から70代の方が役員をされています。悩みの一つでもございます。交通安全は家庭からをモットーに、今までの活動を継続していこうと思っております。これで発表を終わります。ありがとうございました。

## 宮城県交通安全母の会連合会 副会長／登米市交通安全母の会連合会 会長

### 金澤 いく子

宮城県交通安全母の会連合会副会長、登米市交通安全母の会連合会会長の金澤と申します。本日は高齢者交通安全教室の実施状況についてと題しまして、登米市の交通安全母の会の実施事例発表をさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに宮城県登米市について、簡単に紹介したいと思います。登米市は平成17年に9町の合併により誕生しました。スライドでは赤く表示されているところです。県の北東部に位置し、北は岩手県、西は栗原市大崎市、南は石巻および涌谷。東は、気仙沼および南三陸に接しております。人口は令和2年度国勢調査で76,032人。面積は県全体の7.36%を占めており、県内第5位の規模になっております。市の中央は迫川と北上川が還流しております。有数の穀倉地帯であり、宮城米のササニシキやひとめぼれの生産地として有名な地域です。またブランド牛、仙台牛を4割近く出荷しており、県内最大の肉の生産地です。市の北西部には白鳥、がんなどが飛来するラムサール条約湿地の伊豆沼、内沼をはじめ、東京オリンピックのボート競技場候補地にも上がりました長沼を有しております。豊富な河川、湖沼のロケーションがあることから水の郷と親しまれています。登米市の中で、東和町は北東部に接しており、北は岩手県、東は南三陸町、気仙沼市に隣接しております。人口は6,557人で、面積は登米市の中でも特に大きく、自然が豊かな地域であります。以上、宮城県登米市と東和町の簡単な紹介になります。ぜひ機会があれば、登米市および東和町にお越しください。

さて、本題に戻りまして、母の会の活動の話をします。東和町交通安全母の会は会費を収めている会員が令和4年度の値で、1,268名おります。実際の活動に参加する人数としましては、50名ほどになります。役員は会長1名、副会長3名、幹事3名、庶務1名、会計1名で活動しております。活動の内容といたしましては主なものが、4月に町内の幼稚園、小中学校の新入生のお祝い金を贈与し、各園や学校に応じ、交通安全用品の投入に活用してもらっています。秋の交通安全運動期間中に街頭キャンペーンや町内各地で、街頭指導、特に秋は夕暮れ時刻と帰宅の時間が重なり、事故が増加する傾向があることから、夕方の街頭指導を実施しております。広報活動も行っています。そして今年度は、豊齢者交通安全教室を実施しました。豊齢者交通安全教室は、高齢化社会を迎え、高齢者が関わる事故が、増加傾向にあることから、高齢者の交通安全意識の向上を図ることを目的として開催した事業です。登米市とあいおいニッセイ同和損保で結んだ連帯協定の支援メニューを活用し、交通

安全危険予測シミュレーションを活用した交通安全講話を行ないました。開催日時は令和4年11月24日の午後1時30分からです。講師には、一般財団法人日本交通安全教育普及協会普及事業部 係長 井澤 夕里氏をお迎えし、東和町老人クラブ連合会、東和町交通安全母の会の会員など31名を対象として開催しました。また、参加者にはグッズとして反射材付きの手袋、エコバッグ等を配布しました。高齢者の交通事故発生状況の講義、認知判断能力の自己判断シミュレーターを用いて、運転場面での危険の体験を通じて、自身の身体能力の状況の確認、危険予測の重要性、危険感受性を高めることができました。その上で、自身の身体能力の変化を把握し、補うことの重要性を学びました。講話のアンケートでは、参加者31名中27名から回答いただきました。講話をとっても理解できたが74%、どちらとといえば理解できたが26%。実用性についても、とても役に立ったが85%、どちらかといえば役に立ったが15%と理解度、実用性ともに高い評価を得ることができました。感想では「とても分かりやすい話し方で、よく理解できた」「交通安全に気をつけて安全運転で過ごしたいと思う」「今回の交通安全教室は、たいへん役に立った。普段あまり意識しないで運転していたけれど、今回の教室で、気づきがあった。特に危険予想予測シミュレーターは非常に意識づけられた。」「日頃の運転の意識を高めてくれる内容だった。」「先生のお話がとても分かりやすく、とても親切な感じだった。」などの好評を得ることができました。今後も交通安全は家庭からを合言葉に交通安全事業に取り組んでまいりたいと思います。以上を持ちまして活動事例発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

## 交通安全母の会米沢連合会 会長

### 加藤 澄子

ただいまご紹介いただきました。米沢市交通安全母の会 会長加藤 澄子です。よろしくお願いたします。はじめに、米沢市は山形県の最南端に位置し、山形県の母なる川最上川の源である吾妻連峰に広がる米沢盆地にあり、北は高畠町と川西町に、西は飯豊町に、東と南は福島県に接しています。県内の市町村中、4番目の面積で県全体の5.8%を占めております。市域の大部分は山林と原野であり、平坦地は20%程度であります。夏は高温多湿で、冬の寒さは厳しく、降雪量が多く市街地でも平年の最高積雪量が約1mとなるほどです。本市全域が特別豪雪地帯に指定され、人口は76,179人。世帯数は33,676世帯です。本市は伊達氏と上杉氏の両氏が本拠としたことにより、城下町として栄えました。なお現在に残る米沢の城下町の基礎を築いたのは、米沢藩初代藩主、上杉 景勝で平成21年NHK大河ドラマ「天地人」の主人公である直江 兼続であります。上杉神社をはじめとする上杉氏ゆかりのある名所、旧跡はもとより貴重な文化財があるほか、四季を通じて米沢の心を表現する祭りを開催しています。また、米沢の味ABC。Aはアップル。Bはビーフ。Cはカーブなど、食の宝庫であり、さらに全国有数の名湯秘湯など温泉資源にも恵まれております。歴史と伝統文化が息づく。上杉の城下町へ皆さん、ぜひお越しください。

交通安全母の会米沢市連合会では、交通安全は家庭からのスローガンのもと、交通安全に

果たすべき母親の役割と責任を自覚し、活動しています。重点目標として、愛の一声運動「しっかり止まってはっきり確認」を掲げ、家族が出かける際、いってらっしゃい、気をつけてねと笑顔で送り出し、交通事故を起こさないよう、遭わないように愛の一声運動をしています。

主な活動について紹介します。春には新入学児童へ連絡帳袋、新4年生には反射シールを贈呈しています。各期の交通安全県民運動に合わせて、関係機関、団体の主催する交通情勢に対応した啓発活動に積極的に参加し、交通安全意識の向上を図っています。主に白井スーパーの出入り口で街頭啓発活動しています。また、夏の交通事故防止を図るため「おしよしな交通安全湯茶接待」と題して、お盆中に道の駅米沢の利用者に対し、交通安全啓発チラシやドライブの疲れを飲み物などで癒していただくように、山形つや姫の玄米茶、そして米沢牛サラミなどを配布し、コロナ中は駅周辺正面玄関前にてマスクを着用し笑顔で利用者に対して交通事故防止を願って啓発をしていましたが、今年は4年ぶりに1台1台車を止めて啓発活動しました。余談ですが、「おしよしな交通安全湯茶接待」とありますが、その中の「おしよしな」は米沢の方言で、ありがたいの意味です。

秋には高齢者の交通事故防止推進強化に合わせて関係団体と連携し、交通事故防止活動の重点対象とする地区を設定し、その地区内の高齢者宅を訪問します。交通安全啓発書を手渡し、会話する中で履物や傘、自転車等に夜光反射材を貼付します。それと同時に市内17支部の推進委員がご近所の高齢者宅を訪問して、重点地区同様に夜光反射材貼付活動し、交通安全に対する意識と知識の高揚を図り、合わせて高齢者の交通事故撲滅祈願署名を集めています。ここ最近ではコロナ中の影響で重点地区を設定しての啓発活動はできておりませんが、各支部の高齢者宅訪問啓発活動は対策をしっかりと、できる範囲での実施をしています。

次に交通安全啓発企業訪問についてです。米沢地区安全運転管理者連絡協議会と共催で、毎年秋に市内企業5社を訪問しています。母の会の活動を伝えるとともに、交通安全メッセージを読み上げて交通安全の呼び掛け、交通安全啓発物品やチラシを従業員に配布し、企業内での交通安全に対する取り組みなどを伺い、交通安全意識の高揚を図るとともに、企業名入りの、のぼり旗2種類2本ずつ、計4本を寄贈しています。それぞれ企業独自で交通安全に対する取り組みをしており、例えば朝礼で独自の交通安全ルールブックを社員で読み合わせしたり、会社前で抜き打ち指導したりと企業努力が伝わり、一緒に交通事故撲滅に向けて、より一層の安全管理に努めていきたいと思っています。

次に山形県の事業であるハートフルメール事業についてですが、時代を担う子どもたちを悲惨な交通事故から守るため、校外生活においても行動範囲が広がる小学校4年生の児童を対象として、高齢者宛てに交通事故防止や交通安全に関するメッセージをハガキに書き、児童及び受け取った高齢者の交通安全意識の高揚、そして児童と高齢者の交通事故防止を図るものです。米沢市では市内14小学校の4年生児童が自分の祖父母に対し、近況報告や交通安全を呼び掛けるメッセージハガキの作成をしています。そして作成したハガキ

を集約し、各地域において広報や展示することにより、児童はもとより、地域の交通安全意識の高揚を図っています。宛名の書き方、送り方を知らない児童も良い勉強になりましたし、コロナ禍でなかなか会えない祖父母への心温まるハガキで祖父母の方々から喜ばれています。

次に毎年12月に関係団体と合同で交通安全祈願祭を行っています。秋の高齢者世帯訪問の際に頂いた高齢者交通事故撲滅祈願署名を祈願書奉納するとともに、年末の交通事故防止を祈願しています。そして年1回、春の母の会だよりを発行しています。母の会活動を市民の方に報告させていただき、家庭での交通安全意識の高揚を推進しています。山形県交通安全母の会では、交通遺児激励活動を行ない、交通遺児の子どもたちがその逆境にめげずに勉学に励み、健やかに成長されることを願って募金や経歴激励金の贈呈をしています。最後にこのような取り組みをこれからも継続し、交通安全は家庭からをモットーに交通事故のない安全、安心なまちづくりを目指して活動して行きたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

## 福島地区交通安全協会 事務局長

### 岡崎 康典

福島地区交通安全協会の事務局長をやっております。岡崎と申します。今日はどうぞよろしくお願ひします。皆さんの活動とちょっと違う紹介になりますけれども、福島県でこんなことやっているのだなと言うところで話を聞いて頂ければと思います。

最初は運転卒業証書交付事業を始めましたので、それについて説明したいと思います。交通安全協会では県トラック協会の協賛を得まして、運転免許証を自主返納された65歳以上の方に、多年にわたり安全運転に努め、交通事故の防止に尽力されたことをたたえる運転卒業証書というものを交付することを開始しました。全国的に高齢運転者による交通事故が後を絶たない中で運転免許証の自主返納しやすい環境を整えると共に、高齢化社会を地域全体で支える企業を盛り上げることを目的に実施しております。実施の経緯といたしましては、最近では高齢者の事故のニュースを見ると思います。昨年11月、福島市内で高齢運転の軽自動車は歩道を暴走し5人の死傷者を出すという悲惨な交通事故が発生しました。この時の運転者が97歳の男性ということで、大きく報道でも取り上げられ、社会的反響も大きく、高齢者の事故を防ぐにはどうしたらいいかが課題となりました。そこで、福島県交通安全協会としまして、高齢者の交通事故を少しでも減少させたいと高齢運転者の自主返納促進に寄与するため、本事業を実施することとしました。このように、自主返納者に対する卒業証書の交付については、他県でもやっているところがあるかと思っております。当県でも、独自に各地区で実施しているところがありましたが、今回は、県協会として県内全域で同様に実施するということを目的として、やっているところでございます。事業の開始日は令和4年12月15日で、交付対象は先ほどお話ししましたように、自主返納した65歳以上の高齢者で、交付を希望する方としております。返納された免許証を卒業証書に貼り付け、日付を

入れた上で、写真のように職員が直接高齢者に対して交付するという形でやっております。当初は、この写真フレームが、黒や白がありました。色が黒の枠でやったら写真があることであまり評判が良くありませんでした。現在は緑やピンクのものを作っております。予算につきましては、用紙代等で663,900円ほど予算化しておりました。交付状況につきましては、事業開始から本年9月末現在で2,337人交付しております。事業開始当初は新聞等で広報したこともあり、多くの高齢者から関心を持っていただきました。実際に交付を受けた方からは記念になっていいね、帰ったらすぐ飾ります、悩んだけど返納決めて良かったと思います、記念になりますと皆さん喜んでいただいております。自主返納決めた方のほとんどの方は悩んで、悩んで決断しているものと思います。卒業証書を交付して、その決断をたたえることは、些細なことですが、自主返納しやすい環境づくりに寄与しているものではないかと考えております。以上が卒業運転卒業証書の交付事業の説明となります。

次に「交通安全ふくしま5つ星」について説明いたします。交通事故防止対策のポイントとしまして、事故の多くが高齢者、夜の事故、交差点での事故、歩行者横断中、シートベルトなどの交通事故防止のポイントを、「交通安全ふくしま5つ星 フクレンジャー」としてキャラクター化し、多くの県民に、交通事故防止のポイントを理解していただき、交通事故防止に繋がればと思い作成したものです。協会としまして、動画をホームページに掲載しているほか、交通関係団体が協力してテレビCMを県内テレビ局で流してもらっております。あと啓発品にこのようなキャラクターを印字するなどして、県を上げて推進しているところです。どんなものかということで、見てもらいたいと思います。まずは、ホームページに掲載している動画です。皆さんも福島県の交通安全協会のホームページを見ていただければ、これが見ることができます。これがホームページに載っているものです。この3つが今、テレビで流れている動画です。飲酒運転は、先ほど横断歩道の停止率は上がって東北1位だったのですが、飲酒運転の事故率、事故を起こした人の中での飲酒運転の割合は全国ワースト3位でした。福島県は、飲酒大国と言われております。飲酒運転根絶に向けた活動を進めていきたいと思っております。以上で福島県の発表を終わります。ありがとうございました。

## 青森県交通安全母の会連合会 理事

### 長島 貴子

本日、活動報告をさせていただきます。佐井村交通安全母の会会長の長島 貴子と申します。どうぞよろしく願いいたします。佐井村交通安全母の会は、「みんなですすめよう交通安全」を基本姿勢に活動を行っております。

具体的には、関係機関・団体との連携を密にし、地域の実情に合った組織づくりや、若い世代が活動しやすい体制を整えるなど組織の充実を図っています。また、各種大会へ積極的に参加し、各市町村の母の会の取組活動に触れ、会員の自覚を高め、交通安全は家庭からを基本とし、村民一体となって交通安全に取り組むといった会員意識の向上と「みんなですす

めよう交通安全」の浸透、また子ども・高齢者の交通事故防止、シートベルト・チャイルドシート着用の徹底などを重点目標としております。

主な活動といたしましては、春・秋の全国交通安全運動に伴い、期間中に交通安全旗の掲揚や各地区の通学路において街頭指導を行っております。また、年間を通して、村広報紙や村内の各家庭に設置しておりますタブレット端末「サイボード」での交通安全の呼びかけや活動内容の記事の掲載を行っております。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で各種大会や研修会への参加、村内での活動の制限が余儀なくされましたが、今年度より村内のカーブミラーの清掃活動を再開する予定でございます。

昨年はむつ・下北ブロック研修会を「佐井村津軽海峡文化館アルサス」で開催いたしました。青森県交通安全母の会連合会前会長をはじめ、来賓、各地区母の会会員など、57名にお集まりいただきました。研修会の主な内容といたしましては、アトラクションとして、佐井村保育所児童のみなさんに、交通安全にちなんだ「ピッピー体操」を演じてもらい、体操終了後には、飛び出しはしない「約束の言葉」を宣言していただきました。また、講話・講演では、大間警察署交通課長様より「地域の交通事故発生状況と変化への対応」をテーマに、JAF青森支部様より「危険予知の大切さと交通ルールの落とし穴」をテーマにお話ししていただきました。交通ルールの変更点や、サポートカー限定条件の運転免許について、そして、ドライバーや歩行者の視点・見え方について再確認することができました。佐井村交通安全母の会は、これからも基本姿勢・重点目標を念頭に置き、地域の方々の協力も得ながら、村民が安心・安全に暮らせるよう交通事故防止に努めてまいります。

以上で、活動報告を終わります。ありがとうございました。

## ■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

黒井産業(株)黒井交通教育センター本部／東北公益文科大学サステナブル・モビリティ研究所

奥山 祐輔

奥山先生：意見交換ということですのでけれども、6県の発表でもっと詳しく聞きたいことなどありますでしょうか。

●：宮城県の発表で「豊齢者交通安全」とありますが、「豊齢者」はどのくらいのお年の方でしょうか。またどういった意味でしょうか。

●：65歳以上です。豊かに年を取っていくということです。

●：素晴らしい言葉ですね。

奥山先生：今の豊齢者はどなたのアイデアなのでしょう。

●：私も具体的なことはわかりかねますが、県全体で高齢者を中心とした活動は活発的に行っております。反射板の体験活動なども実施しており高齢者が中心となって活動しています。

奥山先生：他はいかがですか。

●：宮城県東和町の発表についてご質問です。主な活動事例として、保育園、小学校への新入生お祝い金の贈呈とありますが、財源はどのようにしておりますでしょうか。また、一関市のマスコットはどのようなものをお配りしているのでしょうか。この2点が質問になります。

●：私は登米市母の会です。東和町のことはわかりかねてしまいます。詳しくはわかりませんが、集落から一件当たり300円ほど毎年集めて、そのお金を財源にしております。登米は100円しか集めないのですが、東和町は300円集めるので予算が多いようです。その中と町からの予算、補助金でやり取りをしていると思います。よろしいですか。

奥山先生：もう1つのマスコットの件はいかがでしょう。

●：マスコットは、毎年違うものを作るのですが、今年は荷造りの紐で金魚を作りました。目玉は100均で買いました。マスコットには今年の標語をつけて配りました。一昨年はくみボタンを2つ合わせて標語を付けました。後は、白い布テープで犬を作りました。毎年作るものは変えております。毎年標語をつけて作成しております。

奥山先生：ありがとうございます。他にはございますか。

●：米沢地区への質問です。いろんな活動を発表していただきましたが、企業訪問は私共で行ったことがなく、啓発品、チラシ、のぼりまで寄贈しているとのことですが、お金のかかる事業だと思います。この財源はどのように集めていますか。また、米沢だけではなく、各県財源はどのようになっているか、給付金は出ているかを聞きたいです。宮城県は、県からの補助金が0です。そのため、会費で全部の活動費を賄っております。補助金があればどのくらい出ているのかお伺いしたいです。まずは米沢市からお願いいたします。

●：米沢市内でも各地区によって異なり、負担金も違います。私共は小さな市部ですので170世帯で360円くらい頂いております。また自協会からは20,000円。その中で活動を維持しております。今年もこれから企業訪問を行います。企業の方に反射材、ティッシュをお配りしますが、予算はそこまでかけておりません。やれる範囲でやっております。市に収めている予算から行っております。母の会ですが、お金は一切貰わずにボランティアで行っております。企業などに挙げるものには使っておりません。

●：山形県からの補助金の話を見せていただきますと、各市、町のほうには出ておりません。各地区連合会に対して県から補助金を出している状況でございます。

奥山先生：他の県はいかがですか。

●：能代市は市から補助金を活動費としていただいております。

●：各市に母の会があり、その組織を束ねる会として母の会連合会というものがございます。母の会連合費ということで各市町村の運営費ということで会費を頂いております。さらに、県からの補助金団体様からの寄付金を受け、連合会として財源があるということになります。各市町村に対しての補助金というのではなく、あくまで連合会の補助金としていただいております。その中で反射材や、各市の母の会の方にお渡ししているということになります。

奥山先生：今回秋田と山形の行政の方来ていただいておりますが、他の県もほぼほぼ同じなのか、それとも県独自の色があるのですか。

●：青森県は40市町村ありまして、まずは地区町村の人口に応じて会費を決めて取っております。県からの補助金は、県のほうから外部監査が入り調査しました。忙しさにかまけて皆様にその情報をリターンできておりませんが、ご希望の方がいらっしゃいましたら青森県母の会連合会事務局から東北各地区に紙ベースで送らせていただきます。青森県は今年度、277万円の予算をいただいております。ですが、支援金の方も減らして行く形になって、来年度は260万という予算がつくことになっております。あと先ほど言った40市区町村からはだいたい90万弱、その会費がございます。それと、あと県内各地区あの賛同していただく賛助会員の皆様、あとは寄付金団体、それが大体年間100万ぐらいございます。それが私たちの活動資金となっております。以上です。

奥山先生：はい。ありがとうございます。その他のご意見はいかがでしょうか。

●：ハートフルメールのお話について伺いたいのですが、長くやってらっしゃる活動かと思いい、とても良い活動だなと思いい聞かせていただきました。今回ハガキの書き方を知らない子供たちも教わることの効果があるというお話でしたが、学校に母の会の方々が子供たちに指導されるのでしょうか？それとも学校の方でご理解いただいて、授業の中で子供たちに教えて、作成する時間をとっていただくのでしょうか。

●：ハートフルメールですが、小さな小学校だったので、先生の担当の先生はとても優しく教えていただいて、つくっていただきました。大きい学校になると、先生のご理解をいただくのにすごく大変でした。できないと言われる学校もあります。というのも、やはりプライバシーの問題で、住所を書くということもあり、大変な中やっています。近年いろいろ難しいことも出ていますが、無理なく進められたらいいなと思いいます。

奥山先生：ありがとうございます。私もハートフルメールはいいなと思いいます。ですが最近では個人情報とかが気にされ、住所などが知られてしまうなどの問題が出てまいります。いい事業ですが、足かせになってしまうことがあると思いいます。その他ございますか。

●：素朴な質問になりますが、私も長くこの仕事をしております。やむなくさせていたただいており、役員のみ手も激減。地域の保守活動に携わる役員、副会長、会長、理事を集めるのがどれだけ大変か。ここでの内閣府の方々は何名かお越しいただいているので、悩みをお聞きしていただきたいと思いい反面、来年もこの形で講習会をやるのかどうか、前は毎年3県か4県が発表を、持ち回っていたと思いいのですが、今日全部の県が発表しました。この形を来年からまた続けるとなると、旅費日当も私たちの県からは一切出ておりません。全部個人負担で参加しておりますので、もちろん、あの内閣府からは旅費は出ましたけどね。宿泊その他の細かいローカル線の方は全部自分たちで持って、この会議に参加しているという事情をお汲み取りいただき、大変生意気なことですが、私たちの交通安全母の会が何年続くのか、その期待をどれくらい寄せているのか。私は内閣府にお話を頂けると来年からも勇気をもって頑張って働いていけるかなと思いいます。生意気ながらお話しさせていただきました。

よろしく願いいたします。

奥山先生：内閣府の方よろしく願いいたします。

内閣府：私は 9 月に着任をさせていただきました。その前は警視庁上野警察署にて交通課長をやらせていただきました。その際に母の会の方と接し、なり手がいないということも分っております。そういった中で、皆様のお力で事故が減少していていることもあり、この状況を何とかしていこうということで着任し、国の動きを見たところ、少し前までは絵本やグッズを提供したりなど、ポスターに関しては芸能人を利用していました。ですが、年々国のお金も減ってきております。お気持ちを汲んで、できる限り皆様のお力になれるようにやっていきたいと思っておりますし、皆様にご負担をお掛けして、パワーポイントも作るのがどれだけ大変か、非常に時間と手間と労力がかかる話だと思います。去年はオンラインのみでしたので、今回はできれば多くの皆さんに参加していただきたいと会場・オンラインでの開催とさせて頂きました。今回の貴重なご意見を来年に生かしていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

●：ありがとうございます。できれば、母の会のみんなが出席できるような会があるといいですね。

奥山先生：ありがとうございます。引き続き何かございますか。では、私のほうからよろしいでしょうか。福島県の方に質問ですが、免許返納については地域によっては難しいところもありますが、福島県では免許返納が多いとありましたが、2,337 名が証明書を希望した数だと思いますが、希望されない方はどのくらいだったのでしょうか。

●：パーセンテージは出していないのですが、ほぼ全員に近いくらい渡しております。拒む方は 1、2 名くらいでした。

奥山先生：なるほど。僕の思い込みになりますが、このような希望をする人はいやいやというより、進んで返納しに来る方で、いやいや返しに来た人は、こんなのいないとなるのかなというイメージがありましたので。

●：もちろん返納になるので、家族一緒に来ます。そこで主旨を家族の方にお話ししながら、飾って下さいとお伝えしています。この事業の発端というのが、15 年から 20 年くらい前にうちの地区で一回やっているのですが、もっと豪華な単価 2,000 円くらいのクリスタルガラスで作って、それは安全協会と安全運転協会と福島県事業主に予算を取ってもらってやっていたのですが、高価なだけあり廃止になりました。ですが去年、県から連絡が来てお金がかからない方法で実施できないかということで、福島県一帯となって配布するようにしております。

奥山先生：ありがとうございます。福島県のほうで先程、話題提供いただいたデジタルコンテンツご紹介ですが、今の時代動画や SNS というやつですね、こういうのを使うのはとても有効的だと思います。どうでしょうか。何かこういう企画を考えたことがあるなど企画を考えるのは難しいでしょうか。

●：福島警察署はやっております。YouTube に上げておりますので是非深川警察署と検索

していただいて見てみてください。福島県の場合は補助金をもらっておりませんし、安全協会のわずかな補助金でやっているような状況です。私共は何かイベントがある際にそれに乗っかるように運営しております。多少の自主活動もありますが基本的にはこのような形でやっております。

奥山先生：ありがとうございます。最後に発表された青森県の発表で「若い世代が活動しやすい」というフレーズがあったかと思います。こういった若い世代が入ってくると SNS 使った活動も出てくるのかなと思います。現状ですとどこの県も年齢層が非常に高いのかなと、これが継続の為には若い力が必要であり皆様ご苦労されていたことと思います。いかがでしょう。青森県のほうで先程おっしゃっていた若い世代が活躍しやすい環境に対して取り組みなどほかの支部に参考になるようなことがありましたらお願いいたします。

●：PTA の方に参加いただくようにしております。もちろん無理はせず大きな大会のみ参加いただくようにしております。そのようなことでよろしいでしょうか。

奥山先生：無理はしない範囲で、イベントなどを通して触れてもらうように促しているということでしょうか。ありがとうございます。宮城県はどうでしょうか。

●：宮城では地域のお祭りが多いです。お祭りでは若い人が先頭に立ち、元気なお年寄りはどうぞんぞんそれに参加します。年寄りが持つ長い経験を生かしてくれる青年ばかりです。私もその一人です。若い人に声をかけられたらついていき交通ボランティアだけでなく他のイベントにも参加しております。高齢化の今若い力が目立つそんな街に住んでいて幸せだなと感じています。

奥山先生：ありがとうございます。

●：若い層の関連なのですが、私の住んでいる地域では交通安全母の会の理事は世帯ごと交代で行っております。PTA のお母さんたちなので若くていいのですが、それぞれ仕事があるので、肝心な時に出ていただけないこともあります。大きなイベントの際には、誘導や接待などに動いていただき、私たち母の会はのんびり構えております。そのような体制で行っております。

奥山先生：ありがとうございます。秋田県の世帯訪問について興味を持ちまして、能代のほうで子育て、高齢住宅訪問に高校生もついていくということでしたが、高校生が同行する経緯とメリットを教えてください。

●：自然災害なども重なり、世帯訪問をやろうとすると母の会だけではできなく、警察アドバイザーの方と学校に相談したところ協力していただき、高校生は4、5名協力してくれました。ドアをノックする際に一人より複数人のほうがしやすく効率よく回れるようになりました。反射材の使い方も教育できましたし地域から喜ばれております。

奥山先生：そうですね。警察の方や大人がピンポンとくるより、高校生から来られたほうが出やすいですね。受け手にもいい影響があるということですね。大体発表の中で出てきたのが、街頭活動、世帯訪問、交通安全教室だと思います。今日は、教育についてお話しいただいたので、この交通安全教室についての課題や質問などがあればどなたかお願いいた

します。

●：警察アドバイザーの方や幼稚園生が寸劇をしてくれます。すごく楽しみにしてくれています。私共も入りやすいです。

奥山先生：寸劇というのはどなたがするのですか。

●：警察アドバイザーの皆さんがチームを作って老人向けにしてくれます。

奥山先生：警察官の方も寸劇をされるのは大変ですね。どうでしょうか。他に変わった交通安全活動教育がある方いますか。

●：3年前にオンラインで発表したときに、念願だった8か所の保育施設にて横断歩道の渡り方を小学校入学前に交通安全教室を開きました。内閣府からいただいた、横断歩道の渡り方の紙芝居や腹話術人形を使いました。人形を使い、こどもと話し、学んだことの復習も致しました。最後には交通安全グッズを渡すことを長年やっていました。最近是人形も壊れて修理してもらえない、紙芝居もボロボロになってしまい、時間がない中自分たちで作ろうか困っておりました。ですが、死亡事故が起こらないように活動を続けております。楽しさを重視しております。もう一つは、高校生が立ち上がり、生徒会を中心に交通安全委員会を立ち上げてもらいました。10数年今も私たちと朝7:30から8:00まで校門に立ち挨拶運動をしております。職員の方、学生たちに支えられ、苦しいけど楽しく活動しております。これからも頑張ります。

奥山先生：ありがとうございます。それではお時間も迫ってきました。他に何かある方いますか。

●：今までお話しいただいた内容は母の会が中心となってやっていることなののでしょうか。福島県では母の会はなく、協会が運営をしております。どなたが案件を立案し、どなたが主導権を握って運営しているのが気になりました。ぜひ参考にさせていただきたいです。

●：予算は一切もらわず、私共と警察、地域の力を借りて笑顔で運営しております。心身共に奉仕活動の心でまじめに取り組んでおります。お巡りさんも高校生も朝早くから張り切ってきてくれます。いいのか悪いのかわかりませんが、もう少し安全協会から予算を回してもらえばどんなに私たちは助かるか。旗1本作るのも大変で5年に1度しか作ってもらえません。襷一本で喜んで頑張っております。そういう現状です。

●：わかりました。交対協は皆様の地区にもあるかと思いますが、その下部組織が母の会なので、交対協から母の会に補助金が出ている状態なのです。

奥山先生：ありがとうございます。やはり各県各支部によって、予算も違いますし、案件立案、リードも取り方も違うと思います。予算は出ないけども立案するケースもあれば、各支部によって違うようですのでこればかりは全国统一は難しいと思います。各県の状況に応じた活動が必要だと思います。

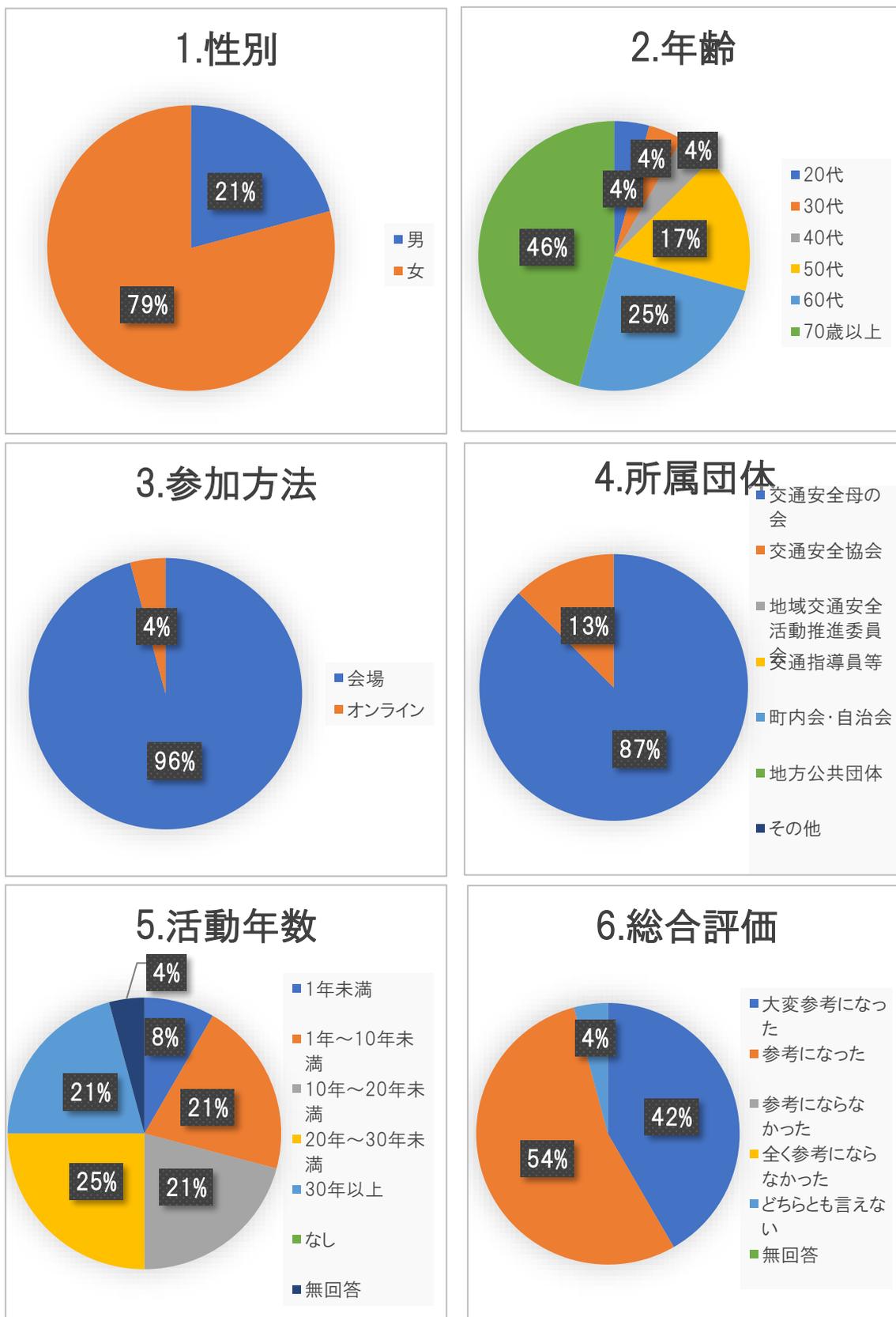
## ■講評

活発なご意見ありがとうございます。今いろいろお話を聞いた中で、先ほどお話したように、私はどちらかというと教育実践とかが専門ですので、やはりその辺が一番気になりました。まず先ほど警察官の方が寸劇をするような話を聞きました。昔、宮城県の中学校で1年生から3年生の、自転車教室を担当したことがあります。1年生だった生徒が3年生になると、成長しているのです。先ほどのブラザーシップですが、3年生になったら、じゃあ今度は下級生に何かしようと考えて、寸劇を考え始めました。例えば、電柱の役、車の役、歩行者の役を演じていました。なかなか外部から人を呼んできて、寸劇をやるのは大変だったりするのですが、子供達を使ってという言い方も変ですが、そういう方法もあるのかなと思いました。

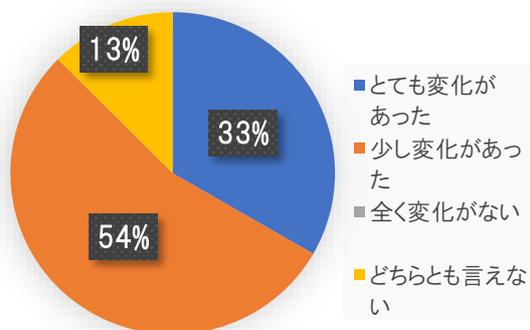
それから、我々も企業や学校に行き、交通安全教育をやりますが、一番大事なのは、それによって皆さんの行動の変化することですよね。できればアンケートをとるときには、何か行動変化が起きたか、今までなかったものをやろうとしたかなど、追跡調査する工夫してみるといいと思います。それにより今後の改善策などに繋がっていくのかなと思います。

あとやはり予算の話でお金の話が出ました。私も一般企業、企業自動車学校という立場ですけれども、これはあのみなし公務員みたいな仕事もしています。免許業務をしていますので。あまり企業の方には働きかけをしたことがないと思いますが、もしかすると好意的な企業というのはたくさんあるのではと思います。特に我々なんかは、なかなかこちらから何かしますよとは言いつらく、下心があるのではないかと思われてしまいます。そちらから持ちかけていただければ、最初に説明したように、自動車学校というのは地域の安全センターという社会的役割があります。あとはやはり地域の交通安全は、地域の企業も含めてみんなで、なんとかしていこうという動き、そういう理想を持っている会社はいくつもあると思います。今後チャレンジしてもらいたいと思います。活動するには予算は大変だと思いますが、このようなこともお試しいただければと思います。今日は活発な意見、いろいろ聞かせていただきまして、私も勉強になりましたし、大変助かりました。ありがとうございました。また、お会いできることを願っております。本日はどうもありがとうございました。

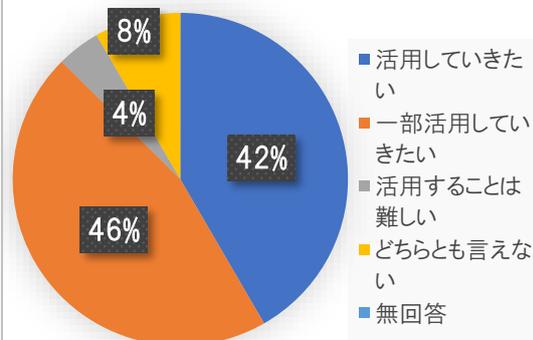
### 3.アンケート集計結果



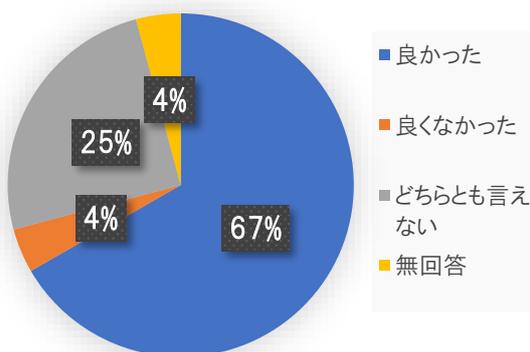
## 7.意識の変化



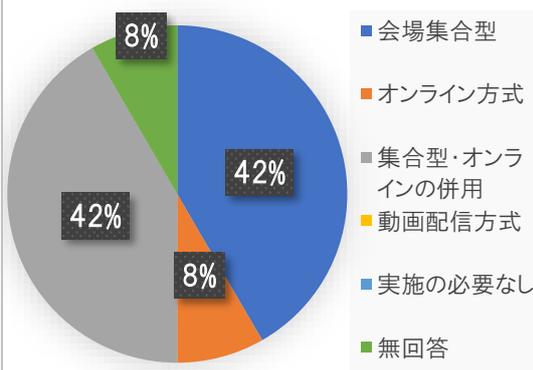
## 8.講義内容の活用



## 9.実施方法



## 10.来年度の実施方法



### ⑪今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・少人数参加型ボランティアを成功させるには？人口減少、高齢化社会を上手な運営方法について
- ・飲酒運転防止対策等
- ・免許返納の上手な進め方
- ・何回でも子供、高齢者の行動等の話を希望
- ・講演も必要ですが（毎回同等？）実施を兼ねるのも良いかな
- ・交通事故者のご家族のお話を聞いてみたいと思っています。家族の生活も激変したことと思います
- ・参加型交通安全教育の具体例、日本での東北での事例を紹介してほしい
- ・事故等の原因等をもっと詳細に知りたい。東北地区、地域による変化等
- ・高齢者の免許返納について

⑫本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・全国的に多い高齢者の事故を防ぐために免許証の返納だけでは解決できないかとたくさんの方のそれぞれの立場からお考えを伺いたいと存じます
- ・今後は今の通りでは参加者は少なくなるでしょう
- ・全体での講習は必要だと思います
- ・毎年同じような講演、マナー化のような感じ、時には各グループに分かれてディスカッション的にも良いのでは
- ・各都道府県での交通事故の事例について発表し、改善方法、回避方法を学ぶ機会があったらと思います
- ・保育園、小学校、中学校などで講習、講演があれば、子供たちも身近に感じるのではないかと思います
- ・もっともっと勉強して知識だけではなく実践ではどうかと考える

⑬本講習会の運営、スタッフについて

- ・大変良かったと思います
- ・良かった
- ・お昼の休憩が短かった
- ・時間が長く帰りが遅くなり、もう少し早く終わらせるか半日で終われるような大会を希望します
- ・内閣府に場所を提供したという感じだった。県母の会の姿がみえなかった。今はこのような形になったのかな？
- ・初めての会場でした。近場なのにウロウロ。ホテル前に標示とかできないものでしょうか昼食時にもとまどいが。近場の紹介等があればよかったです
- ・定時の受付は少し無理かな？早めに会場についても誰もいない
- ・初めの参加でしたので間違っていたら申し訳ありませんが、今回の会議内容を県交通安全対策協議会、県交通安全母の会、県交通安全協会などの県レベルにも通知してください各地区レベルでも参考になると思います
- ・とても良かったです。ありがとうございます
- ・運営、スタッフのみなさんの対応はとてもよかったです
- ・会場が明るいと良い
- ・交通費の支払いが手間取ったので支払方法について考えてほしい

⑭その他ご意見

- ・ごくろうさまでした

- ・県外から来た方は昼食場所に困りました。有料でもよいので弁当があると良いと思いました
- ・ボランティア等ブロック講習会との名称であるが、参加者が母の会の方がほとんどであるので、母の会のみ講習会にするとか、等がつくのであれば、各団体に呼びかけ参加者を明確にすべきではないか
- ・参加団体を統一したほうがお互い今後の活動の参考になるのでは
- ・講演が延びた時の講師へ対応して欲しかった
- ・今後子供たちへの安全教室等での話をすることが大変勉強になりました
- ・奥山先生のお話はとても興味深く聞かせていただきました。日暮れも早くなりました。もう少し早く終わってほしいものです
- ・福島県安全協会の発表が大変良く参考になりました
- ・会場までの道案内がなかった。昼食の件をどうにかしてほしい。自費でもよいのでお弁当にしてほしい
- ・お昼の時間があまりなく、バタバタしてしまいました
- ・参加団体に偏りが見られますので、満遍なく各団体から参加できるようにしてもらいたい。若しくは交通安全母の会と名称変更してください。さらに安協事務局レベルの会議開催をお願いします
- ・若い世代の会合があっても楽しいかもしれない。マダムたちに萎縮しちゃう子供の交通安全。雪道の安全運転の講演では、資料が見やすく（字の大きさ、色分け、イラスト）よかった
- ・丁度、高齢者の啓発をどうしたらよいか考え中、参考になりました。発表は大変良かった。私達の活動をがんばらなくてはと感じました
- ・事例発表において私のしていることと同じだったり、似ていたり、真似してみたいと思うことが多くてありがとうございました
- ・わかりやすく、丁寧な公演をありがとうございました。園児への読み聞かせ、お手紙への工夫のヒントを見つけることができました

#### 4.写真

##### 【東北ブロック】



会場の様子

会場の様子



講演 鈴木先生

講演 奥山先生



活動事例発表

意見交換会